



2025 年度 医学教育共同利用拠点
医学教育開発研究センター
年報

岐阜大学

GIFU UNIVERSITY

はじめに

岐阜大学医学教育開発研究センター（Medical Education Development Center: MEDC）は、医学教育分野の教育関係共同利用拠点として、わが国の医療者教育の質向上と発展に資する取り組みを継続してまいりました。2025年度は、第4期計画の初年度にあたり、「教育の再構築」を中核理念として、教学・臨床現場・デジタル基盤を横断する実装に力を注いだ一年となりました。

本年度の拠点活動における最大のトピックは、新規拠点事業である医療者教育デザイナー養成講座「らいちょう」の立ち上げです。「らいちょう」は、第4期で掲げる新たな枠組み――対面・オンライン・オンデマンドを統合した学習コミュニティの再編――を象徴する取り組みです。多忙化・高度化が進む医療現場と大学教育の双方において、教育や業務のあり方そのものを再設計し、変革を牽引できる人材の育成を目指して開発いたしました。また、既存のセミナーやワークショップ、ウェビナーを再編し、オンライン・コミュニティ（仮称「学びの大地」）として知見を蓄積・共有する構想も着実に進めております。

卒前教育においては、従来より担当してきた社会医学系科目等を継続しつつ、本年度は医学部1年生を対象とした「ヘルスシステム演習」および「キャリア形成学実習」を新たに開講いたしました。医療者としての基盤形成を早期から支える教育体制を拡充し、将来を見据えた学修の土台づくりに取り組んでおります。

大学院教育では、医学教育学分野博士課程および医療者教育学専攻修士課程において、実践知の高度化と専門家ネットワークの形成を着実に推進してまいりました。これまでに30名を超える修了生が各地の教育現場でリーダーシップを発揮し、学会活動や教育実践を通じて成果を社会へ還元していることは、MEDCの人材育成ミッションの具体的な成果といえます。

地域・学際連携の面では、高山市からの寄付により設置された「地域共創型飛騨高山医療者教育学講座」が2年目を終えました。「共創」を訓読みした「ともつく」を愛称に掲げ、飛騨高山地区における中高生から医学生、研修医、専攻医に至るまでの一貫した教育活性化を推進しております。また、小児科との合同による「岐阜大学大学院医学系研究科希少難病研究室」を文部科学省事業の一環として新たに立ち上げました。MEDCは、医療者教育の視点から研究環境を支援し、研究者のワーク・ワークバランスを促進するモデルの構築にも取り組んでおります。本年度はその基盤整備を進め、次年度以降の本格展開へとつなげてまいります。

2025年度の成果は、全国の皆様からのご支援とご指導、そして現場で学び合い、挑戦を重ねた受講者・学生・教職員の熱意によって支えられました。第4期の歩みは始まったばかりです。引き続き新たな教育の再構築を目指し、医療者教育の未来を共に創る全国拠点として、より良い学びの環境を全国へと届けてまいります。引き続きのご支援とご高配を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

令和8年4月

医学教育共同利用拠点

岐阜大学医学教育開発研究センター

センター長 西城 卓也

目次

MEDC 概要 1

ミッションとビジョン

職員名簿・令和 7 年度事業報告

業績・新聞記事

拠点活動 32

学びの宙の報告

医療者教育スターターキット

医学教育セミナーとワークショップ

アソシエイト会員制度

フェローシッププログラム

医療者教育デザイナー養成講座「らいちよう」

MEDCast

機関誌「新しい医学教育の流れ」

教務事務研修

ホームページ/SNS (Facebook・X・Instagram)

大学院 42

教育研究の推進

修士課程 (医療者教育学専攻)

博士課程 (医学教育学分野)

卒前教育 45

医学生の学びを支える

ヘルスシステム演習

医療キャリア形成学実習

医学概論

テューリアル選択配属

医師患者関係

臨床推論 (西洋医学的アプローチ)

ライフサイクル

医療英語・国際交流

英語 O S C E

里親 (里子) 支援

学内活動・学外活動 56

指導医講習会/ユニットの会

臨床スキル・シミュレーションラボ/岐阜大学模擬患者の会

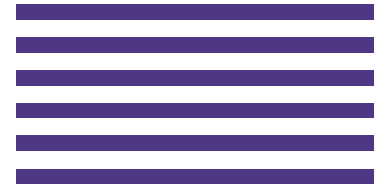
医学教育分野の I R 実践/マギル大学臨床教育研修会

沿革

MEDC概要

MEDC概要

—ミッションとビジョン—



拠点活動

“学びの大地”と称した各種全国規模の講習会などを定期開催し、段階的に学べるプログラムを通じて、全国の医療者教育者の能力向上と活動の活性化に努めています。

大学院教育

岐阜大学大学院医学系研究科医科学専攻医学教育学分野博士課程と医療者教育学専攻修士課程で大学院生を指導しています。

卒前教育

岐阜大学や名古屋大学医学部などと連携し、卒前の医学教育における学生の支援・各科目指導・学内改革に取り組んでいます。

新しい潮流を創る

岐阜大学医学教育開発研究センターは、東海国立大学機構岐阜大学の組織です。2001年に設立され、2001年からは全国共同利用施設として、2010年からは医学教育の共同利用拠点として、文部科学省より認定されるセンターです。わが国の医療系の学習者と指導者のために、新しい医

療者教育を開発・研究・普及させることが、私たちのミッションです。常に改善と改革を意識して、海外のエキスパートとも交流を深めながら、全国のため、岐阜県のため、そして岐阜大学のために、全国の皆様と医療者教育の新しい流れを創り上げて参ります。

職 員 名 簿

教 員

職 名	氏 名	所 属	備 考
センター長 指導者養成部門長 教 授	西城 卓也	指導者養成部門	
副センター長 教育開発学部門長 併任講師	野村 理	教育開発学部門	
併任講師	宮地 由佳	指導者養成部門	
特任助教	早川 佳穂	教育開発学部門	
特任助教	木原 美波	教育開発学部門	希少難病研究室員

兼任教員

職 名	氏 名	所 属 等
准 教 授	川上 ちひろ	大学院医学系研究科医科学専攻医学教育学分野
准 教 授	堀田 亮	保健管理センター

客員教員

職 名	氏 名	所 属 等
客 員 教 授	菊川 誠	九州大学大学院医学教育院医学教育学講座 准教授
客 員 准 教 授	八木 街子	自治医科大学看護学部／看護師特定行為研修センター 准教授
客 員 准 教 授	長崎 一哉	筑波大学水戸地域医療センター 講師

招聘教員

氏 名	所 属 等
赤嶺 陽子	大阪市立総合医療センター
浅川 麻里	Leading HER
鈴木 康之	

寄附講座教員

氏 名	所 属 等
高橋 美裕希	地域共創型飛騨高山医療者教育学講座
鷹羽 律紀	地域共創型飛騨高山医療者教育学講座

非常勤職員

職 名	氏 名	備 考
教務補佐員	栗本 志乃	希少難病研究室員
事務補佐員	藤井 梨恵子	
事務補佐員	窪田 恭子	～R7.12.16
事務補佐員	高橋 琴乃	
派遣職員	松岡 由佳	R7.10.1～

事務職員（医学系研究科・医学部教育企画係・IR 室員）

職 名	氏 名	備 考
係 長	若井 仁美	
事務補佐員	福田 ゆう	～R7.12.31
事務補佐員	清水 純子	IR室員
派遣職員	高田 晴美	～R7.9.30
派遣職員	斉藤 麻矢	R8.1.1～

非常勤講師

氏 名	所 属
後藤 忠雄	県北西部地域医療センター国保白鳥病院
清水 郁夫	千葉大学大学院医学研究院医学教育学
浅田 義和	自治医科大学医学教育センター
岡崎 史子	新潟大学医学部医学科医学教育センター
齊藤 裕之	山口大学医学部附属病院総合診療部
藤江 里衣子	藤田医科大学医学部医学科医療コミュニケーション
小野 香織	松本大学総合経営学部総合経営学科
梅村 絢美	名古屋大学大学院医学系研究科
春田 淳志	慶応義塾大学医学部医学教育統轄センター
松山 泰	自治医科大学医学教育センター
道信 良子	福井県立大学看護福祉学部
下井 俊典	千葉大学大学院看護学研究科附属専門職連携教育研究センター
望月 礼子	鹿児島大学医歯学総合研究科 救急・集中治療医学部門
船越 拓	東京ベイ・浦安市川医療センター（～R7.10.31） 名古屋市立大学医学研究科（R7.11.1～）
高橋 慶	医療生協さいたま生活協同組合川口診療所
後藤 亮平	筑波大学医学医療系

廣内 大輔	信州大学教育・学生支援機構（～R7.10.31） 大阪大学学際大学院機構学位プログラム企画部（R7.11.1～）
三好 智子	京都大学医学研究科医学教育・国際化推進センター
海野 航平	医療法人かがやき
今福 輪太郎	名古屋市立大学看護学部看護研究推進センター
木村 武司	名古屋大学医学部附属病院、卒後臨床研修・キャリア形成支援センター
濱田 千枝美	産業医科大学病院救急集中治療科、産業医科大学医学教育改革推進センター
林 幹雄	関西医科大学教育センター

運営協議会委員

氏 名	所 属 等
西城 卓也	岐阜大学医学教育開発研究センター長 教授
伊藤 彰一	千葉大学大学院医学研究院医学教育学 教授
岡崎 史子	新潟大学医学部医学科医学教育センター 教授
片岡 仁美	京都大学医学研究科医学教育・国際化推進センター 教授
田中 淳一	東北大学大学院医学系研究科医学教育推進センター 教授
蓮沼 直子	広島大学医学部附属医学教育センター 教授
早稲田 勝久	愛知医科大学医学教育センター 教授
牛越 博昭	岐阜大学医学部長 教授 岐阜大学地域医療医学センター 教授
秋山 治彦	岐阜大学医学部附属病院長 教授
古家 琢也	岐阜大学医師育成推進センター長 教授

運営委員会委員

氏 名	所 属 等
西城 卓也	岐阜大学医学教育開発研究センター長 教授
牛越 博昭	岐阜大学医学部医学科長 教授 岐阜大学地域医療医学センター 教授
井關 敦子	岐阜大学医学部看護学科長 教授
秋山 治彦	岐阜大学医学部附属病院長 教授
森 龍太郎	岐阜大学医学部附属病院医療情報部長 准教授
任 書晃	岐阜大学大学院医学系研究科 教授
岩田 浩明	岐阜大学大学院医学系研究科 教授
畠山 哲大	岐阜大学医学系研究科・医学部 事務長

令和7年度事業報告

●実施事業関係

① 医療者教育デザイナー養成講座「らいちょう」

自施設における医療者教育全体が鳥瞰（俯瞰）できる、持続可能で施設の実情に見合う教育がデザインできる、施設の医療者教育を牽引・発信できる、“医療者教育デザイナー”の養成を目的とする。

内 容：10月1日(水)～11月20日(木) 遠隔事前学習 自己学習、eラーニング
11月21日(金)～23日(日) 対面ワークショップ(岐阜)
12月8日(月) 第1回 オンライン相談会
2月5日(木) 第2回 オンライン相談会
2月27日(金) オンラインフォローアップ

対 象：医療機関・医療者教育機関に所属する医療者教育に関わる方

期 間：10月1日(水)～3月31日(火)

参加者数：20人

② MEDCast (メドキャスト)

冬の医学教育セミナーとワークショップ（オンライン開催）を Webinar シリーズに改変し、年6回大学での教育に関する様々なコンテンツを発信する。

第1回 「教員や指導者の指導力を高める：プログラムと実践的コツ」

実施日時：7月10日(木) 19:00-20:00

参加者数：225人

第2回 「医療者教育 Co-creation（共創）深読み会議！」

実施日時：8月1日(金) 18:00-19:00

参加者数：214人

第3回 「コンピテンシー基盤型教育をニューロダイバーシティの視点から考える」

実施日時：9月3日(水) 13:30-14:30

参加者数：235人

第4回 「ともに創る医療者教育 — 小さな対話から始める教職協働」

実施日時：10月8日(水) 13:00-14:00

参加者数：200人

第5回 「クリスマスに考えるアドボカシー教育と実践—今から始めるためのヒント」

実施日時：12月24日(水) 12:00-13:00

参加者数：215人

第6回 「コンピテンシー、正直よくわからない」あなたへ。～CBME のモヤモヤを AI と読み解く
60分～

実施日時：2月19日(木) 12:00-13:00

参加者数：324人

③ スターターキット

医療者教育機関で働き始めたばかりの教員、職員、あるいはこれから医療者教育学を学んでいきたい方を対象としたeラーニングプログラムで、医療者教育学の基本を学ぶことができる。

個人学習の提供に加え、MEDCは全国の大学のFD/SD開催へのプログラム提供および開催支援を行い、2025年度までに全国19校で導入された。

医療者教育スターターキット

第26回国公立大学医学部・歯学部教務事務職員研修にて、事前学習に活用した。

スターターキットの受講登録者は2,000名を超え、修了者は862名(R8.3.31現在)となった。

シン・医療者教育スターターキット

2025年8月に公開を開始した新しい動画シリーズ(全12テーマ)

シン・スターターキットの受講登録者は900名を超え、修了者は388名(R8.3.31現在)となった。

④ MEDC フェローシップ

コース名：メドギフト2025

事前課題：3月10日(月)～6月13日(金)、自己学習、eラーニング

キックオフオンラインミーティング[※]：4月4日(金)17:00-19:00 Zoom

自己紹介、事前課題ディスカッション

セッション1：4月7日～4月20日、eラーニング

学習者はどのように学んでいるのか？—やる気、関わり、深い学び—

セッション2：4月21日～4月27日、eラーニング

教育者は学びをどのように捉えるべきか？—学習者の評価のあり方—

セッション3：4月12日～5月25日、eラーニング

教育プログラムをデザインする—魅力あるコースの構築—

オンラインワークショップ[※]：6月13日(金)17:00-20:00 Zoom

振り返り、仲間とともに考え、まとめ

対 象：教員、医療従事者など

期 間：3月10日(月)～6月13日(金)

参加者数：18人

⑤ 医学教育セミナーとワークショップ

第91回医学教育セミナーとワークショップ

実施日：5月29日(木)～31日(土)

(第26回国公立大学医学部・歯学部教務事務職員研修併催)

内 容：・MEDPark 医療系大学の学生と育みたい新たな資質・能力とその評価

・MEDStudio 隣の教育実践を聴いてみよう！

・WS-1 医学教育研究で研究費申請書を書いてみよう～科研費を主として～

・WS-2 医学教育実践を「カイゼン」のフレームワークで最適化しよう

・WS-3 働き方改革時学生臨床実習と学習アプローチのあり方

・WS-4 Key to a Strong Research Abstract：文国際学会に採択される医療者教育学抄録作成の鍵

- ・WS-5 グラフィック・メディスン—マンガを活用した医療者教育の可能性
- ・WS-6 専門職連携教育（IPE）の初歩の初歩—いいIPE、よくないIPEって何だろう
- ・WS-7 カリキュラムに医療安全教育を組み込むには？
- ・WS-8 リフレクションの扉：ディブリーフィング入門
- ・WS-9 持続的に発展できる医療系大学の医療者教育部門／ユニットのこれから！

参加者数：236人（内 講師 52人）

第92回医学教育セミナーとワークショップ in 鹿児島大学共催

実施日：10月27日（木）・28日（金）

- 内 容：・Seminar 行動科学×臨床実践：6年間で育む行動科学的視点と実践力
- ・WS-1 授業や実習を“PIF”の観点から考えてみよう
 - ・WS-2 医療者教育に活かす Appreciative Inquiry と Open Space Technology～主体性と対話で「あり方」を育む～
 - ・WS-3 ユニットの会 ～地域連携と全国協働を考える集い（九州地区開催）
 - ・WS-4 映画と即興演劇で学ぶ医療者の行動科学：シネメデュケーション×インプロ（即興演劇）
 - ・WS-5 ロールプレイで学ぶ医療者教育のためのコーチング
 - ・MEDTaaalk 拡大版 シン・医療者教育スターターキットで医療者教育の基本を学ぼう！
 - ・MEDTaaalk1 授業評価に対する医学生への認識と参加行動：文化的視点から
 - ・MEDTaaalk2 生成AIの教育への応用の実践例 ～臨床実習におけるAIメンターの開発～
 - ・MEDTaaalk3 臨床実習 × インストラクショナルデザイン = 自己調節学習+その先へ
 - ・MEDTaaalk4 医療者のアイデンティティ形成について考えてみよう

参加者数：149人（内 講師 33人）

⑥ 第26回国公立大学医学部・歯学部教務事務職員研修

主 催：国立大学医学部長会議常置委員会
 （教育制度・カリキュラムに関する委員会）
 一般社団法人 全国医学部長病院長会議
 （医学教育委員会・カリキュラム調査専門委員会）

実施日：5月29日（木）～30日（金）

内 容：医学・歯学教育の改革がこれまでにないスピードで行われている現状を踏まえて、医学・歯学教育に関する現状と教務事務に関する理解を深め、医学部・歯学部の教務事務職員としての資質の向上を図ることにより、各国公立大学における円滑な教務事務の進展に寄与することを目的としている。講義、班別討議、ワールドカフェ等を行い、知識と理解を深めた。

講義「医学部・歯学部 カリキュラムの鳥瞰図」

班別討議 1 ICT・AI

班別討議2 学習者支援とアンプロフェッショナルへの対応」

ワールドカフェ

教職協働企画：MEDPark 医療系大学の学生と育みたい新たな資質・能力とその評価（第91回医学教育セミナーとワークショップ共同企画）

参加者数：47人

④ 客員教授等招聘

国内客員教授：菊川誠（九州大学大学院医学教育院医学教育学講座 准教授）

- ・医学教育開発研究センター講師
- ・医学教育セミナーとワークショップ企画・運営
- ・医療者教育スターターキット
- ・MEDCast 講師

国内客員准教授：八木街子（自治医科大学看護学部／看護師特定行為研修センター 准教授）

- ・医学教育開発研究センター講師
- ・医学教育セミナーとワークショップ企画・運営
- ・医療者教育スターターキット

国内客員准教授：長崎一哉（筑波大学水戸地域医療センター 講師）

- ・医学教育開発研究センター講師
- ・医学教育セミナーとワークショップ企画・運営

⑤ 初心者向けテューター研修会（FD）

ファシリテーションスキルのオンデマンド学習動画

アクティブラーニングの方法のオンデマンド学習動画

⑥ 医学教育教材の研究・開発

指導者養成部門

- ・医療指導者のキャリア支援及び教育力の開発

教育開発部門

- ・医療者教育の教育法，プログラム及び評価法の開発

⑦ 学外的対応：各種会議等での講演及び学外へのノウハウ提供

大学（病院含む）、国内外の医療系教育学会、医師会等に招聘され講演等を実施した。

遠隔医療教育、多職種連携教育、学習者支援等の多岐にわたる内容を伝達した。

報道等で広く市民に活動の一端を公開した。

●会議開催関係

1. 岐阜大学医学教育開発研究センター運営協議会

	開 催 日
第1回	令和 7年 6月 9日(月)

2. 岐阜大学医学教育開発研究センター運営委員会

	開 催 日
第1回	令和 7年 5月 20日(火)
第2回	令和 7年 7月 7日(月)
第3回	令和 8年 2月 2日(月)

●来訪者

期 間	所属・分野・役職	氏 名	来訪目的
R7.6.19	国立研究開発法人産業技術研究所	大野 美喜子	プロジェクト打合せ
R6.6.4		高橋 優三	表敬訪問
R8.2.18	岐阜県総合医療センター	山本 一雄	表敬訪問
R8.2.20	千葉大学・教授	伊藤 彰一	各種ご紹介・ご案内

業 績

著書（和文）

- 1) 川上ちひろ. 学生や新人が「発達障害かもしれない」と感じたらーそれぞれの困りごとから考え、ともに成長する学習者支援. 医学書院, 東京, 2025.

著書（欧文）

なし

総説（和文）

- 1) 川上ちひろ. 発達障害のある子の性と関係性をどのように教えるのか. LD 研究 一般社団法人 日本 LD 学会 第 33 回大会特集 FACE TO FACE の関係構築・地域づくり 2025; 34(1): 41-48.
- 2) 川上ちひろ. カモフラージュをして生きる子どもたちを地域で支えるーカモフラージュというレンズを通してみる今の子どもたちー. 日本学校健康相談学会第 21 回学術集会抄録集 2025; 12-15.
- 3) 武田裕子, 西城卓也, 椎橋実智男, 錦織宏, 菊川誠, 松山泰, 中村真理子, 前野貴美, 土屋静馬, 今福輪太郎, 高村昭輝, 鶴田潤, 八木街子, 宮地由佳, 尾原晴雄, 長崎一哉, 野村理, 片岡裕貴. 日本医学教育学会誌の新たな展開ー学術誌としての進化と投稿規程改定の意義ー. 医学教育 2025; 56(2): 87-98.
- 4) 今福輪太郎, 川上ちひろ, 松井真弓, 山内恒生, 小島悠揮, 西城卓也. 新たな教育的視点としてのプラネタリーヘルス: 持続可能な社会に向けた医療専門職の育成. 医学教育 2025; 56(3): 204-206.
- 5) 野村理. 小児科専門研修における専門職アイデンティティ形成: 連続性を取り戻す術. 小児内科 2025; 57(9): 1121-1124.
- 6) 徳増一 樹, 宮地由佳, 森下真理子. 医学教育での PERSONAL HEALTH RECORDS の活用と課題: 異分野交流リトリートが拓く省察の視点. 医学教育 2025; 53(3): 198-199.

総説（欧文）

なし

原著（和文）

- 1) 吉澤悠喜, 川上ちひろ, 芳野純, 木村大輔, 西城卓也. 論証モデルに基づいた理学療法士の症例報告会における議論の分析ー臨床推論評価尺度の開発に向けてー. 理学療法学 2025; 52(1): 28-36.
- 2) 鈴木康之, 恒川幸司, 武田裕子, 川上ちひろ, 今福輪太郎, 早川佳穂, 西城卓也. 医学生の職業選択動機と背景要因の解析: 教職志望学生向け尺度の医学生への適用. 医学教育 2025; 56(1): 1-10.
- 3) 田原卓矢, 西城卓也, 今福輪太郎, 早川佳穂, 鈴木康之. 大学病院での臨床工学技士の指導者に求められる資質・能力に関する質的研究. 医療の質・安全学会誌 2025; 20(1): 12-23.
- 4) 濱田千枝美, 川上ちひろ, 今福輪太郎, 野村理, 尾辻健, 西城卓也. 自己調整学習サイクルを駆動させる救急科診療参加型臨床実習モデルを通じた医学生の認識の変容. 医学教育 2025; 56(3): 149-159.

- 5) 高橋美裕希, 野村理, 鷹羽律紀, 高田惟登, 浅野文哉, 川尻宏昭, 西城卓也. 医学生による課題探究型学習の地域における実践とその教育的意義ー“第3世代の医療者教育”の視点からー. 医学教育 2025; 56(3): 189-193.
- 6) 鈴木康之, 野村理, 恒川幸司, 西城卓也, 武田裕子. 大学第一世代医学生の社会的・教育的背景に関するオンライン質問紙調査. 医学教育 2025; 56(3): 171-175.
- 7) 濱田千枝美, 恒川幸司, 川上ちひろ, 今福輪太郎, 尾辻健, 西城卓也. 4C/IDモデルを基盤としたSRLを駆動させる救急科診療参加型臨床実習が医学生の動機づけに与える影響. 医学教育 2025; 56(4): 239-244.
- 8) 平井克城, 伊藤貴康, 野村理, 久保田伊代, 浅野茜, 志水貴之, 上村小雪, 磯部真倫, 西城卓也, 牛越博昭. XRを用いた臨床推論シミュレーションにおけるファシリテーションが学習者の感情に与える影響. 医学教育 2025; 56(4): 245-248.
- 9) 利根川尚也, 今福輪太郎, 早川佳穂, 鈴木康之, 西城卓也. 小児科専攻医に対するアドボカシー教育プログラムの教育効果に関する質的研究. 医学教育 2025; 56(5): 293-304.
- 10) 川上ちひろ, 野村理, 早川佳穂, 高橋美裕希, 木原美波, 宮地由佳, 西城卓也. 医療者教育の変革を担う人材育成: システム・デザイン思考に基づく実践講座のニーズ評価. 医学教育 2025; 56(6): 373-378.
- 11) 鈴木康之, 野村理, 恒川幸司, 武田裕子, 西城卓也. 人口少数地域での勤務を志向する医学生の社会的背景. 医学教育 2025; 56(6): 367-371.
- 12) 三原弘, 長南行浩, 木村心南, 神野敦, 浅田義和, 川平洋, 野村理, 松山泰. 医学教育モデル・コア・カリキュラムにおける37症候の練習のためのGPTバーチャルペイシェント使用感調査: 第一報. 札幌医科大学 医療人育成センター紀要 2025; 16: 23-26.
- 13) 因直也, 藤田俊文, 藤田あけみ, 北宮千秋, 工藤幸清, 藤岡美幸, 田中真, 野村理, 鬼島宏, 富澤登志子. 複数の医療系専門領域の学生のワークショップによるIPE教育効果. 医療職の能力開発 2025; 10(1): 15-26.
- 14) 中尾寛, 野村理, 利根川尚也, 窪田満, 石黒精. 患者ケアオーナーシップ: 小児科専門研修でのパイロット調査. 医療職の能力開発 2025; 10(1): 42-48.
- 15) 川上ちひろ. カモフラージュをして生きる子どもたちを地域で支えるーカモフラージュというレンズを通してみる今の子どもたちー. 学校健康相談研究 2025; 22(1): 52-54.
- 16) 清水光治, 近藤諭, 野村理, 武島健人, 松本清明, 高村昭輝. AED設置場所の啓発における複合型教育モデルを活用した行動変容の影響. 日本臨床救急医学会雑誌 2026; 29(1): 23-27.

原著 (欧文)

- 1) Saki Suzuki, Rintaro Imafuku, Chihiro Kawakami, Yuriko Abe, Eric H Jago, Chiaki Hidai, Takuya Saiki. Perceptions and Motivations of Japanese Medical Students Regarding Course Evaluations: A Cultural Perspective. *Advances in Medical Education and Practice* 2025; 16: 145-155. DOI: 10.2147/AMEP.S499021.
- 2) Takaaki Mori, Kenta Sugiura, Osamu Nomura, Hiroshi Futagawa, Hiroshi Yoshihashi. Characteristics and management of pediatric patients with a genetic disorder and malformations in a pediatric

- emergency department. *Pediatrics International* 2025; 67(1). DOI: 10.1111/ped.70091.
- 3) Kenta Sugiura, Yusuke Hagiwara, Osamu Nomura, Yoshihiko Morikawa, Hiroshi Hataya, Koichi Yoshida. Procaterol via nebulizer versus metered-dose inhaler with a spacer for acute asthma exacerbation in children. *Pediatrics International* 2025; 67(1). DOI: 10.1111/ped.70072.
 - 4) Hiro Nakao, Osamu Nomura, Mitsuru Kubota, Naoya Tonegawa, Kensuke Shoji, Akira Ishiguro. To enhance patient care ownership: A baseline cross-sectional study on pediatric training. *Pediatrics International* 2025; 67(1). DOI: 10.1111/ped.70278.
 - 5) Yuta Sasaoka, Takaaki Mori, Yusuke Hagiwara, Osamu Nomura. Identifying the cause of serious viral infections in febrile young infants visiting the pediatric emergency department. *Pediatrics International* 2025; 67(1). DOI: 10.1111/ped.70288
 - 6) Osamu Nomura, Momoka Sunohara, Haruko Akatsu, Jeffrey Wiseman, Susanne P. Lajoie. Unraveling “Feeling Bad” in a Non-Western Culture: Achievement Emotions in Japanese Medical Students. *Medical Science Educator* 2025; 35(3): 1259-1267. DOI: 10.1007/s40670-025-02296-w.
 - 7) Chihiro Kawakami, Osamu Nomura, Miyuki Takahashi, Ritsuki Takaha, Takayasu Ito, Hiroaki Ushikoshi, Takuya Saiki. Rapidly Rising Preference among New-entry Medical Students for Using Generative Artificial Intelligence in Reflective Reports. *JMA JOURNAL* 2025; 8(2): 465-469. DOI: 10.31662/jmaj.2024-0390.
 - 8) Hiro Nakao, Osamu Nomura, Naoya Tonegawa, Mitsuru Kubota, Akira Ishiguro. What is Good Training? Research to Come. *JMA JOURNAL* 2025; 8(4): 1474-1475. DOI: 10.31662/jmaj.2025-0302.
 - 9) Takayasu Ito, Osamu Nomura, Katsuki Hirai, Hiroaki Ushikoshi, Takuya Saiki. Reduced Test Anxiety Among Medical Students in an Extremely Low-Stakes Examination. *Medical Science Educator* 2025; 35(5): 2647-2652. DOI: 10.1007/s40670-025-02468-8.
 - 10) Yusuke Matsuzaka, Chihiro Kawakami, Osamu Nomura, Takuya Saiki. Non-psychiatric physicians' learning experiences from past psychiatric training in Japan: a qualitative pilot study with intergroup contact theory approach. *BMC Medical Education* 2025. DOI: 10.1186/s12909-025-08511-x.
 - 11) Lucia Patino Melo, Sebastian Wallot, Keerat Grewal, Matthew Moreno, Osamu Nomura, Jason M. Harley. Physiological synchrony amongst medical residents during crisis management simulation training and a video-based assessment of leaders' performance. *Learning and Instruction* 2025; 102: 102302. DOI: 10.1016/j.learninstruc.2025.102302.
 - 12) Hajime Kasai, Rintaro Imafuku, Kiyoshi Shikino, Hiroshi Tajima, Ikuo Shimizu, Kaho Hayakawa, Chihiro Kawakami, Shoichi Ito, Takuya Saiki. Learning Through Oral Case Presentations and Impact on Medical Students' Clinical Training and Career Development: A Mixed-Method Study. *The Clinical Teacher* 2025; 22(6). DOI: 10.1111/tct.70242.
 - 13) Satoru Yoshida, Chihiro Kawakami, Rintaro Imafuku, Osamu Nomura, Takuya Saiki. Building bridges in the emergency room: educational alliances between junior residents and attending physicians. *Frontiers in Medicine* 2025; 12. DOI: 10.3389/fmed.2025.1625760.
 - 14) Hiro Nakao, Osamu Nomura, Naoya Tonegawa, Mitsuru Kubota, Akira Ishiguro. Work Style Reform for Pediatric Residents. *JMA JOURNAL* 2025; 8(3): 736-742. DOI: 10.31662/jmaj.2024-0419.

- 15) Takateru Ihara, Osamu Nomura, Miki Ishikawa, Akihiro Shimotakahara, Naoki Shimojima, Takaaki Mori. Pancreas-Specific Physical Examination Enabling Early Diagnosis of Pancreatic Injury in Children: A Case Report. *Cureus* 2025; 17(3). DOI: 10.7759/cureus.81478.
- 16) Chika Shinoda, Keisuke Kitakaze, Yuya Sasai, So-Ichiro Nishioka, Isao Kobayashi, Megumi Sumitani, Ken-Ichiro Tatematsu, Tetsuya Iizuka, Akira Harazono, Ai Mitani, Akihisa Kaneko, Masanori Imamura, Takako Miyabe-Nishiwaki, Yasuhiro Go, Akihiro Hirata, Yoshie Takeuchi, Teru Mizuno, Kei Kiriya, Jun Tsukimoto, Satomi Nadanaka, Akiko Ishii-Watabe, Takashi Kinoshita, Hiroshi Kitagawa, Yasuyuki Suzuki, Takao Oishi, Hideki Sezutsu, Kohji Itoh. N-glycan-modified α -L-iduronidase produced by transgenic silkworms ameliorates clinical signs in a Japanese macaque with mucopolysaccharidosis I. *Communications Medicine* 2025; 5(1): 128. DOI: 10.1038/s43856-025-00841-7.
- 17) Nobuaki Shime, Taka-aki Nakada, Tomoaki Yatabe, Kazuma Yamakawa, Yoshitaka Aoki, Shigeaki Inoue, Toshiaki Iba, Hiroshi Ogura, Yusuke Kawai, Atsushi Kawaguchi, Tatsuya Kawasaki, Yutaka Kondo, Masaaki Sakuraya, Shunsuke Taito, Kent Doi, Hideki Hashimoto, Yoshitaka Hara, Tatsuma Fukuda, Asako Matsushima, Moritoki Egi, Shigeki Kushimoto, Takehiko Oami, Kazuya Kikutani, Yuki Kotani, Gen Aikawa, Makoto Aoki, Masayuki Akatsuka, Hideki Asai, Toshikazu Abe, Yu Amemiya, Ryo Ishizawa, Tadashi Ishihara, Tadayoshi Ishimaru, Yusuke Itosu, Hiroyasu Inoue, Hisashi Imahase, Haruki Imura, Naoya Iwasaki, Noritaka Ushio, Masatoshi Uchida, Michiko Uchi, Takeshi Umegaki, Yutaka Umemura, Akira Endo, Marina Oi, Akira Ouchi, Itsuki Osawa, Yoshiyasu Oshima, Kohei Ota, Takanori Ohno, Yohei Okada, Hiromu Okano, Yoshihito Ogawa, Masahiro Kashiura, Daisuke Kasugai, Ken-ichi Kano, Ryo Kamidani, Akira Kawauchi, Sadatoshi Kawakami, Daisuke Kawakami, Yusuke Kawamura, Kenji Kandori, Yuki Kishihara, Sho Kimura, Kenji Kubo, Tomoki Kuribara, Hiroyuki Koami, Shigeru Koba, Takehito Sato, Ren Sato, Yusuke Sawada, Haruka Shida, Tadanaga Shimada, Motohiro Shimizu, Kazushige Shimizu, Takuto Shiraishi, Toru Shinkai, Akihito Tampo, Gaku Sugiura, Kensuke Sugimoto, Hiroshi Sugimoto, Tomohiro Suhara, Motohiro Sekino, Kenji Sonota, Mahoko Taito, Nozomi Takahashi, Jun Takeshita, Chikashi Takeda, Junko Tatsuno, Aiko Tanaka, Masanori Tani, Atsushi Tanikawa, Hao Chen, Takumi Tsuchida, Yusuke Tsutsumi, Takefumi Tsunemitsu, Ryo Deguchi, Kenichi Tetsuhara, Takero Terayama, Yuki Togami, Takaaki Totoki, Yoshinori Tomoda, Shunichiro Nakao, Hiroki Nagasawa, Yasuhisa Nakatani, Nobuto Nakanishi, Norihiro Nishioka, Mitsuaki Nishikimi, Satoko Noguchi, Suguru Nonami, Osamu Nomura, Katsuhiko Hashimoto, Junji Hatakeyama, Yasutaka Hamai, Mayu Hikone, Ryo Hisamune, Tomoya Hirose, Ryota Fuke, Ryo Fujii, Naoki Fujie, Jun Fujinaga, Yoshihisa Fujinami, Sho Fujiwara, Hiraku Funakoshi, Koichiro Homma, Yuto Makino, Hiroshi Matsuura, Ayaka Matsuoka, Tadashi Matsuoka, Yosuke Matsumura, Akito Mizuno, Sohma Miyamoto, Yukari Miyoshi, Satoshi Murata, Teppei Murata, Hiromasa Yakushiji, Shunsuke Yasuo, Kohei Yamada, Hiroyuki Yamada, Ryo Yamamoto, Ryohei Yamamoto, Tetsuya Yumoto, Yuji Yoshida, Shodai Yoshihiro, Satoshi Yoshimura, Jumpei Yoshimura, Hiroshi Yonekura, Yuki Wakabayashi, Takeshi Wada, Shinichi Watanabe, Atsuhiko Ijiri, Kei Ugata, Shuji Uda, Ryuta Onodera, Masaki Takahashi, Satoshi Nakajima, Junta

Honda, Tsuguhiro Matsumoto. The Japanese Clinical Practice Guidelines for Management of Sepsis and Septic Shock 2024. *Acute Medicine & Surgery* 2025; 12(1). DOI: 10.1002/ams2.70037.

- 18) Nobuaki Shime, Taka-aki Nakada, Tomoaki Yatabe, Kazuma Yamakawa, Yoshitaka Aoki, Shigeaki Inoue, Toshiaki Iba, Hiroshi Ogura, Yusuke Kawai, Atsushi Kawaguchi, Tatsuya Kawasaki, Yutaka Kondo, Masaaki Sakuraya, Shunsuke Taito, Kent Doi, Hideki Hashimoto, Yoshitaka Hara, Tatsuma Fukuda, Asako Matsushima, Moritoki Egi, Shigeki Kushimoto, Takehiko Oami, Kazuya Kikutani, Yuki Kotani, Gen Aikawa, Makoto Aoki, Masayuki Akatsuka, Hideki Asai, Toshikazu Abe, Yu Amemiya, Ryo Ishizawa, Tadashi Ishihara, Tadayoshi Ishimaru, Yusuke Itosu, Hiroyasu Inoue, Hisashi Imahase, Haruki Imura, Naoya Iwasaki, Noritaka Ushio, Masatoshi Uchida, Michiko Uchi, Takeshi Umegaki, Yutaka Umemura, Akira Endo, Marina Oi, Akira Ouchi, Itsuki Osawa, Yoshiyasu Oshima, Kohei Ota, Takanori Ohno, Yohei Okada, Hiromu Okano, Yoshihito Ogawa, Masahiro Kashiura, Daisuke Kasugai, Ken-ichi Kano, Ryo Kamidani, Akira Kawauchi, Sadatoshi Kawakami, Daisuke Kawakami, Yusuke Kawamura, Kenji Kandori, Yuki Kishihara, Sho Kimura, Kenji Kubo, Tomoki Kuribara, Hiroyuki Koami, Shigeru Koba, Takehito Sato, Ren Sato, Yusuke Sawada, Haruka Shida, Tadanaga Shimada, Motohiro Shimizu, Kazushige Shimizu, Takuto Shiraiishi, Toru Shinkai, Akihito Tampo, Gaku Sugiura, Kensuke Sugimoto, Hiroshi Sugimoto, Tomohiro Suhara, Motohiro Sekino, Kenji Sonota, Mahoko Taito, Nozomi Takahashi, Jun Takeshita, Chikashi Takeda, Junko Tatsuno, Aiko Tanaka, Masanori Tani, Atsushi Tanikawa, Hao Chen, Takumi Tsuchida, Yusuke Tsutsumi, Takefumi Tsunemitsu, Ryo Deguchi, Kenichi Tetsuhara, Takero Terayama, Yuki Togami, Takaaki Totoki, Yoshinori Tomoda, Shunichiro Nakao, Hiroki Nagasawa, Yasuhisa Nakatani, Nobuto Nakanishi, Norihiro Nishioka, Mitsuaki Nishikimi, Satoko Noguchi, Suguru Nonami, Osamu Nomura, Katsuhiko Hashimoto, Junji Hatakeyama, Yasutaka Hamai, Mayu Hikone, Ryo Hisamune, Tomoya Hirose, Ryota Fuke, Ryo Fujii, Naoki Fujie, Jun Fujinaga, Yoshihisa Fujinami, Sho Fujiwara, Hiraku Funakoshi, Koichiro Homma, Yuto Makino, Hiroshi Matsuura, Ayaka Matsuoka, Tadashi Matsuoka, Yosuke Matsumura, Akito Mizuno, Sohma Miyamoto, Yukari Miyoshi, Satoshi Murata, Teppei Murata, Hiromasa Yakushiji, Shunsuke Yasuo, Kohei Yamada, Hiroyuki Yamada, Ryo Yamamoto, Ryohei Yamamoto, Tetsuya Yumoto, Yuji Yoshida, Shodai Yoshihiro, Satoshi Yoshimura, Jumpei Yoshimura, Hiroshi Yonekura, Yuki Wakabayashi, Takeshi Wada, Shinichi Watanabe, Atsuhiko Ijiri, Kei Ugata, Shuji Uda, Ryuta Onodera, Masaki Takahashi, Satoshi Nakajima, Junta Honda, Tsuguhiro Matsumoto. The Japanese Clinical Practice Guidelines for Management of Sepsis and Septic Shock 2024. *Journal of Intensive Care* 2025; 13(1). DOI: 10.1186/s40560-025-00776-0.

その他論文・報告書

なし

研究費

- 1) 研究代表者: 鈴木康之. 我々は将来の医療を誰に託すのか?: 医学部入学者の多様化推進に関する政策的な研究. 2023-2025 年度; 3,300 千円(1,300; 1,100; 900 千円).

- 2) 分担研究者: 西城卓也. 文部科学省 科学研究費助成事業 基盤研究 B: マイクロラーニングを活用した若手指導医養成 Eラーニングの開発と効果検証. 2023-2027 年度; 200 千円.
- 3) 研究代表者: 野村理. 日本学術振興会 科学研究費助成事業 若手研究: ウェアラブルデバイスにより学習者と指導者の感情調整機構を明らかにする医学教育研究. 2023-2027 年度; 4,680 千円(260; 1,040; 1820; 1,560 千円).
- 4) 分担研究者: 野村理. 日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究 B: 医療分野におけるへき地尺度を用いた医療の質格差の改善. 2024-2028 年度; 100 千円.
- 5) 分担研究者: 野村理. 日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究 C: 看護基礎教育における二次救命処置教育 VR 教育プログラムの開発. 2024-2027 年度; 100 千円.

学会等の開催

なし

学会招待講演・招待シンポジスト・座長

西城卓也

- 1) 座長; 国際化・研究・倫理 (2) . 第 57 回日本医学教育学会大会 一般口演 16, 2025.7.26, 秋田.
- 2) 座長; 共に創る医療者教育: 近年の実践例と理論的考察. 第 57 回日本医学教育学会大会 シンポジウム 16, 2025.7.26, 秋田.
- 3) 招待講演; 医療者教育の理論と 実践の往來の旅から見えてきた今の情景. 第 14 回日本理学療法教育学会学術大会, 2026.1.10, 東京.

川上ちひろ

- 1) 座長; 発達障害の特性のある学習者と非認知能力の教育ー共感について事例を通して考えるー. 第 57 回日本医学教育学会大会 ワークショップ 1, 2025.7.24, 秋田.

野村理

- 1) 座長; 指導者養成・医療安全 (2) . 第 57 回日本医学教育学会大会 一般口演 10, 2025.7.25, 秋田.

宮地由佳

- 1) 座長; コミュニケーション (1) . 第 57 回日本医学教育学会大会 一般口演 25, 2025.7.27, 秋田.
- 2) 座長; 日本医学教育学会の未来を共に考える: 新しい視点からのニーズ発見ワークショップ. 第 57 回日本医学教育学会大会 ワークショップ 27, 2025.7.26, 秋田.
- 3) 座長; 日本の医学教育は世界に対してどのように貢献しうるか?. 第 57 回日本医学教育学会大会 シンポジウム 12, 2025.7.26, 秋田.
- 4) 招待シンポジスト; わたしたちのネガティブ・ケイパビリティ〜総合診療とのかかわりを中心に〜. 第 16 回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会, 2025.6.22, 札幌.

学会・研究会 一般演題

- 1) 石川ひろの (プレゼンター), 野村理 (ナビゲーター). コミュニケーションを測ること、評価すること. 第 90 回医学教育セミナーとワークショップ MEDTaaalk 2, 2025.1.24, オンライン.
- 2) 灘光洋子 (プレゼンター), 早川佳穂 (ナビゲーター). 医療者と患者のコミュニケーションを異文化コミュニケーションの視点で考えてみよう. 第 90 回医学教育セミナーとワークショップ MEDTaaalk 3, 2025.1.24, オンライン.
- 3) 野呂幾久子 (プレゼンター), 高橋美裕希 (ナビゲーター). 臨床研究コーディネーター (Clinical Research Coordinator : CRC) のレジリエンス. 第 90 回医学教育セミナーとワークショップ MEDTaaalk 4, 2025.1.24, オンライン.
- 4) 高橋美裕希. 昭和三区で共創する新時代の医療者コミュニケーション. 第 16 回昭和三区医療連携の会, 2025.3.9.
- 5) Osamu Nomura. Assessing Japanese Medical Students' Emotion Regulation: Cross-cultural Development of Japanese Simulation Emotion Regulation Questionnaire. 2025 AERA Annual Meeting, 2025.4.22-4.26.
- 6) Osamu Nomura. Exploring Emotion Regulation of Japanese Medical Students in Team-based Simulations. Richard and Sylvia Cruess Symposium on Scholarship in Health Sciences 2025, 2025.4.29.
- 7) Osamu Nomura. Assessing simulation leaders' emotional arousal: An electrodermal activity experimental study. 24th International Conference on Emergency Medicine, 2025.5.23-5.26.
- 8) 林幹雄, 野村理, 鋪野紀好, 清水郁夫, 水本潤希, 藤川裕恭, 菊川誠. Key to a Strong Research Abstract: 国際学会に採択される医療者教育学抄録作成の鍵. 第 91 回医学教育セミナーとワークショップ WS 4, 2025.5.30, 東京.
- 9) ユニットの会世話人グループ 西城卓也, 高橋誠, 椎橋実智男, 長谷川仁志, 大槻眞嗣, 赤池雅史, 西屋克己, 小松弘幸. 持続的に発展できる医療系大学の医療者教育部門/ユニットのこれから!. 第 91 回医学教育セミナーとワークショップ WS-9, 2025.5.31, 東京.
- 10) 瀬戸山陽子, 平井由児, 田中邦彦, ピーターバーニック, 青木昭子, 川上ちひろ, 堀田亮. 当事者の体験から障害や病いのある医療者と共に働く職場づくりを考える: I 型糖尿病をもつ医師の体験を通じて. 第 16 回プライマリケア連合学会学術大会, 2025.6.20-6.22.
- 11) 山口佳子, 高橋美裕希, 安田恵. Co-creation (学習者と共に創る教育) で実現する学びのチームビルディング. 第 57 回日本医学教育学会大会 ワークショップ 14, 2025.7.25, 秋田.
- 12) 前野貴美, 西城卓也, 八木街子. 【学会誌編集委員会企画】査読者に学ぶ! よい“医学教育論文”の書き方ワークショップ!. 第 57 回日本医学教育学会大会 ワークショップ 8, 2025.7.25, 秋田.
- 13) 井上千鹿子, 早川佳穂, 吉田登志子. 模擬患者 (SP) のフィードバック力を磨く! フィードバックへの理解を深め、実践的トレーニングを体験しよう!. 第 57 回日本医学教育学会大会 ワークショップ 6, 2025.7.25, 秋田.
- 14) 赤嶺陽子, 西城卓也, 岡崎三枝子. 女性医師を対象としたリーダーシップ教育プログラムの開発研究の中間報告. 第 57 回日本医学教育学会大会 口演 1, 2025.7.25, 秋田.
- 15) 鈴木康之, 野村理, 恒川幸司, 武田裕子, 西城卓也. 医学生 of 勤務地志向: 出身背景との相関. 第 57 回日本医学教育学会大会 口演 4, 2025.7.25, 秋田.

- 16) 早川佳穂, 野村理, 川上ちひろ, 高橋美裕希, 西城卓也. 医療者が教育学を学び始めるプロセスの分析—複線径路等至性アプローチより—. 第 57 回日本医学教育学会大会 口演 9, 2025.7.25, 秋田.
- 17) 増田多加子, 今福輪太郎, 早川佳穂, 堀祐輔, 鈴木昭夫, 西城卓也. 薬学生の専門職アイデンティティ形成に関する変化とその影響要因の探索的研究. 第 57 回日本医学教育学会大会 口演 11, 2025.7.25, 秋田.
- 18) 堀田亮, 川上ちひろ, 野村理, 早川佳穂, 鷹羽律紀, 仙石由貴, 白木育美, 平井克城, 操奈美, 高橋美裕希, 牛越博昭, 西城卓也. 初年次医学生の地域体験実習で向上する共感性の因子とは何か. 第 57 回日本医学教育学会大会 口演 26, 2025.7.25, 秋田.
- 19) 平井克城, 伊藤貴康, 野村理, 久保田伊代, 浅野茜, 志水貴之, 上村小雪, 磯部真倫, 西城 卓也, 牛越博昭. XR を活用した臨床推論シミュレーション教育においてファシリテーションが感情に与える影響. 第 57 回日本医学教育学会大会 口演 18, 2025.7.26, 秋田.
- 20) 高橋美裕希. 学習者、教員、ステークホルダーはどのように教育の共創で相互作用しうるのか. 第 57 回日本医学教育学会大会 シンポジウム 16, 2025.7.26, 秋田.
- 21) 野村理. 次のコアカリを海外に発信するために、今できること. 第 57 回日本医学教育学会大会 シンポジウム 12, 2025.7.26, 秋田.
- 22) 松山泰, 野村理, 及川沙耶佳, 菊川誠, 清水郁夫, 矢野晴美. Competency-based medical education guidelines are context-based の執筆から From the writing of 'Competency-based medical education guidelines are context-based'. 第 57 回日本医学教育学会大会 シンポジウム 12, 2025.7.26, 秋田.
- 23) 伊藤亜子, 川上ちひろ, 関根綾子, 菊地良介, 西城卓也. An Exploratory Study on Core Competency Acquisition by Newly Certified Medical Laboratory Scientists. 第 57 回日本医学教育学会大会 e ポスター3, 2025.7.26, 秋田.
- 24) 濱田千枝美, 八木街子, 川原千香子, 川上ちひろ, 岩田勲, 西城卓也. 医学生教育における看護師の役割の探索: 文献レビュー. 第 57 回日本医学教育学会大会 e ポスター11, 2025.7.26, 秋田.
- 25) 西城卓也, 野村理, 正司豪, 早川佳穂, 高橋美裕希, 川上ちひろ, 任書晃, 古家琢也, 前川洋一, 牛越博昭. 医学生のプロジェクト基盤型学習カリキュラム開発を目指した「基礎配属実習」に関する全国の文書調査. 第 57 回日本医学教育学会大会 口演 23, 2025.7.27, 秋田.
- 26) 川上ちひろ, 野村理, 堀田亮, 早川佳穂, 鷹羽律紀, 仙石由貴, 白木育美, 平井克城, 操奈美, 高橋美裕希, 牛越博昭, 西城卓也. 初年次医学生の認知的柔軟性を向上させる地域体験実習. 第 57 回日本医学教育学会大会 口演 25, 2025.7.27, 秋田.
- 27) 高林拓也, 今福輪太郎, 早川佳穂, 奥村将年, 西城卓也. 我が国の診療看護師 (NP) 卒後研修の実態調査とコンピテンシー獲得に向けた研修者の学習経験に関する考察. 第 57 回日本医学教育学会大会. e ポスター24, 2025.7.27, 秋田.
- 28) 安原大生, 野村理, 早川佳穂, 川上ちひろ, 西城卓也. You は何しに大学院へ?. 第 57 回日本医学教育学会大会. オンデマンドシンポジウム 14, 2025.7.27, 秋田.
- 29) 清水光治, 近藤諭, 野村理, 武島健人, 松本清明, 高村昭輝. AED 設置場所の啓蒙における講義とフィールドワークを活用した認知度向上と行動変容の影響. 第 57 回日本医学教育学会大会. 口演 24, 2025.7.27, 秋田.

- 30) 高橋美裕希, 鷹羽律紀, 川尻宏昭, 西城卓也. 高山市の移動診療車をテーマとした医学生の課題探究型学習. 第 30 回岐阜県国保地域医療学会 ポスター発表, 2025.11.16.
- 31) 高橋美裕希, 高橋慶, 安田恵, 山口佳子. 医療者教育 Co-creation (共創) 深読み会議!. 第 2 回 MEDCast, 2025.8.1.
- 32) 木村武司, 堀田亮, 川上ちひろ. コンピテンシー基盤型教育をニューロダイバーシティの視点から考える. 第 3 回 MEDCast, 2025.9.3.
- 33) 西城卓也, 若井仁美, 高橋美裕希, 松村翼. とともに創る医療者教育 — 小さな対話から始める教職協働. 第 4 回 MEDCast, 2025.10.8.
- 34) 早川佳穂, 野村理. 多職種の医療教育者は, 非同期ディスカッションを通じてどのように学び合っているのか?. 第 20 回医療系 e ラーニング全国交流会年次大会, 2025.10.11-12, 北海道.
- 35) 西城卓也, 早川佳穂, 木原美波. シン・医療者教育スターターキットで医療者教育の基本を学ぼう!. 第 92 回医学教育セミナーとワークショップ MEDTaaalk 拡大版, 2025.11.27, 鹿児島.
- 36) 鈴木沙季 (プレゼンター), 宮地由佳 (ナビゲーター). 授業評価に対する医学生の認識と参加行動: 文化的視点から. 第 92 回医学教育セミナーとワークショップ MEDTaaalk 1, 2025.11.27, 鹿児島.
- 37) 海老原颯人・笠井 大 (プレゼンター), 川上ちひろ (ナビゲーター). 生成 AI の教育への応用の実践例～臨床実習における AI メンターの開発～. 第 92 回医学教育セミナーとワークショップ MEDTaaalk 2, 2025.11.28, 鹿児島.
- 38) 濱田千枝美 (プレゼンター), 野村理 (ナビゲーター). 臨床実習×インストラクショナルデザイン=自己調節学習+その先へ. 第 92 回医学教育セミナーとワークショップ MEDTaaalk 3, 2025.11.28, 鹿児島.
- 39) 小松弘幸, 西城卓也, 宮地由佳. ユニットの会～地域連携と全国協働を考える集い(九州地区開催). 第 92 回医学教育セミナーとワークショップ WS-3, 2025.11.28, 鹿児島.
- 40) 横尾英孝, 毛利翔悟, 吉澤悠喜, 高橋美裕希, 山口佳子, 田原卓矢, 利根川尚也. ロールプレイで学ぶ医療者教育のためのコーチング. 第 92 回医学教育セミナーとワークショップ WS-5, 2025.11.28, 鹿児島.
- 41) 高田惟登, 奥田暖, 名和優菜, 矢賀環規, 鷹羽律紀, 高橋美裕希, 西城卓也. 移動診療車の医療 DX は高山の医療の現状にどのような変化をもたらすのか. 第 7 回飛騨高山学会, 2025.11.29-30.
- 42) 利根川尚也, 野村理. クリスマスに考えるアドボカシー教育と実践—今から始めるためのヒント. 第 5 回 MEDCast, 2025.12.24.
- 43) 宮地由佳, 安原大生. 「コンピテンシー、正直よくわからない」あなたへ。～CBME のモヤモヤを AI と読み解く 60 分～. 第 6 回 MEDCast, 2026.2.19.

他大学 FD・その他

西城卓也

- 1) 教えて! 明日から使える授業・研修の作り方のコツ! INSTRUCTIONALDESIGN を楽しく学んで, 実践に活かそう!! 第 57 回日本医学教育学会大会 ワークショップ 31; ファシリテーター. 2025.7.26.
- 2) 高山市ともつく市民公開講座 医療の道へ はじめの一步! ; 企画, 講師. 2025.10.5.

- 3) 高山市立朝日中学校キャリア授業; 企画, 講師. 2025.11.10.

川上ちひろ

- 1) 知的障害者の生理・病理. 学校法人聖徳学園; 非常勤講師. 2024.9.15-2025.3.31.
- 2) 医療系学部の発達障害のある学生の支援を考える. 日本学生相談学会第 43 回大会; 講師. 2025.5.10.
- 3) 発達障害のある看護系学習者への対応において何が問題なのか. 日本看護倫理学会第 18 回年次大会 パネルディスカッション I 発達障害特性のある看護学生・看護職への理解と支援; 講師. 2025.5.18.
- 4) 看護学教育開発論. 学校法人 大阪医科薬科大学 大阪医科薬科大学大学院看護学研究科 博士後期課程科目; 非常勤講師. 2025.5.24.
- 5) 新人医療者が一人立ちするまでの道のりをサポートする. 岐阜大学医学部附属病院メディカルスタッフ研修センター 院内新人指導者研修; 講師. 2025.6.30.
- 6) 障害を持つ児童生徒への性教育. 岐阜県立岐阜本巣特別支援学校; 講師. 2025.7.17.
- 7) 障害のある医師の働く現場/働き方から考える～車椅子を使用する医師の体験を通じて～. 第 57 回日本医学教育学会大会 ワークショップ 7; ファシリテーター. 2025.7.25.
- 8) 発達障害の特性がある学生への理解と支援～医学教育の視点から考える看護系教育の実践～. 西武文理大学 2025 年度看護学部 FD 研修; 講師. 2025.8.4.
- 9) 対応の難しい新人看護師との関わり. 岐阜県看護協会 岐阜県委託事業令和 7 年度新人看護職員教育事業; 講師. 2025.8.9.
- 10) 発達障害のある子どもの性の成長のサポートについて. 岐阜県わかあゆ学園; 講師. 2025.9.2.
- 11) 知的障害・発達障害のある子の「性の成長の支援」. 埼玉県自閉症協会主催研修会; 講師. 2025.9.6.
- 12) 発達障害がある(かもしれない)学生・新人看護師への支援. 2025 年宝塚大学看護学部実習施設連絡協議会; 講師. 2025.9.9.
- 13) 「おつきあいの方程式」よりよい人間関係をつくるには. 岐阜県立本巣特別支援学校; 講師. 2025.9.16.
- 14) 知的障害や発達障害のある子の性の成長と支援. 岐阜県立本巣特別支援学校 PTA 子育て講演会; 講師. 2025.9.16.
- 15) 学生支援に関する検討会. 岐阜県立看護大学; 助言, 指導. 2025.9.17.
- 16) 「おつきあいの方程式」よりよい人間関係をつくるには. 岐阜県立飛騨特別支援学校; 講師. 2025.9.24.
- 17) 発達・発達障害のある子どもの性の成長サポートについて. 宮城県立こども病院 宮城県立拓桃園スタッフ育成研修会; 講師. 2025.9.25
- 18) 学齢後期・思春期. 社会福祉法人つつじ(広島県発達障害者支援センター) 令和 7 年度広島県発達障害支援者研修; 講師. 2025.9.25.
- 19) 性に関する指導. 岐阜県教育委員会; 助言, 指導. 2025.7.17-9.30.
- 20) 発達障害のある子の性教育. 岐阜県教育委員会特別支援教育課; 講師. 2025.10.15.
- 21) 業務がうまくこなせないスタッフへの関わりかた～発達障害があるかもしれない看護師の関わり方～. 愛知県看護連盟研修⑤; 講師. 2025.10.18.

- 22) 知的障害・発達障害のある子の性の成長の支援. 岐阜大学教育学部附属小中学校 令和 7 年度 PTA 特別支援教育委員会 講演会; 2025.11.10.
- 23) 発達障害及びその特性をもつ看護学生の理解と実習指導. 日本赤十字看護大学地域連携・フロンティアセンター 実習指導者研修会/障がい学生支援委員会 FD/SD; 講師. 2025.11.25.
- 24) 発達障害かもしれない学習者に出会ったとき. 医学書院 NEO セミナー 学生対応がうまくいかないときにどうするか; 講師. 2026.1.20.
- 25) 令和 7 年度 性に関する指導講師派遣事業推進協議会; 委員. 2026.1.29.
- 26) 成人期の発達障害者の地域生活適応に向けてⅢ～成人期の性の話題、対人関係から～. 国立障害者リハビリテーションセンター 令和 7 年度発達障害地域生活・就労支援者研修会 (オンライン); 講師. 2026.2.6.
- 27) 発達障害のある女の子・女性の困りごとの支援. 公益財団法人明治安田こころの健康財団 発達障害・専門講座 9 自閉症・発達障害支援の今～本人が本人らしく生活するために～; 講師. 2026.3.8.
- 28) 発達障害特性のある看護学生への理解と支援. 岐阜協立大学令和 7 年度岐阜協立大学看護学部実習指導者連携会議; 講師. 2026.3.12.
- 29) 「対応に配慮が必要なスタッフ」とともにインクルーシブな組織を育てる. 株式会社学研メディカルサポート; 講師. 2025.4.1-2026.3.31.
- 30) 神経発達症 (発達障害) と合理的配慮. 株式会社学研メディカルサポート とともに成長する! 対応に配慮が必要な学習者との向き合い方; 講師. 2025.8.1-2026.3.31.

高橋美裕希

- 1) 第 28 回岐阜県医師育成・確保コンソーシアム臨床研修指導医講習会. 岐阜県医師養成・確保コンソーシアム; 講師. 2024.12.19-20.
- 2) とともに考えてみませんか、人生会議について. 第 3 回高山市民公開講座; 司会, 企画. 2025.1.20.
- 3) 第 29 回岐阜県医師育成・確保コンソーシアム臨床研修指導医講習会. 岐阜県医師養成・確保コンソーシアム; 講師. 2025.6.12-13.
- 4) まずはココカラ! 「主体的な学び」を深める!. 第 57 回日本医学教育学会大会 ワークショップ 15; ファシリテーター. 2025.7.25.
- 5) オープンカレッジ IN 飛騨 2025. 飛騨・世界生活文化センター活用推進協議会; 講師. 2025.8.11.
- 6) 近未来医療シミュレーション体験!. 高山市 飛騨メディカルハイスクール 2025; 運営参加, 支援. 2025.8.30.
- 7) 医療の道へ はじめの一歩!!. 第 4 回高山市民公開講座; 司会, 企画. 2025.10.5.
- 8) はじめての血液・造血器学. オープンカレッジ飛騨 2025 出前授業; 講師. 2025.10.13.
- 9) 岐阜県立斐太高等学校 放課後の交流会. 岐阜県立斐太高等学校 出前授業; 企画, 講師. 2025.10.27.
- 10) 高山市立朝日中学校キャリア授業. 高山市立朝日中学校 出前授業; 講師. 2025.12.1.
- 11) 第 30 回岐阜県医師育成・確保コンソーシアム臨床研修指導医講習会. 岐阜県医師養成・確保コンソーシアム; 講師. 2025.12.4-5.
- 12) 教える力をアップデート!. 第 1 回多職種医療者教育ワークショップ IN 高山; 講師, 企画, 運営参加, 支援. 2025.12.6.

13) 岐阜県立斐太高等学校 探究学習. 岐阜県立斐太高等学校; 助言, 指導. 2025.12.8.

野村理

- 1) 第34回小児科医のための臨床研修指導医講習会. 公益社団法人日本小児科学会; 講師. 2025.1.11-12.
- 2) 医療者教育学とは何か. 国立研究開発法人産業技術総合研究所 OPEN SOCIETY 研究会 第10回勉強会; 講師. 2025.6.9.
- 3) 第35回小児科医のための臨床研修指導医講習会. 公益社団法人日本小児科学会; 講師. 2025.7.5-6.
- 4) 小児診療初期対応 (JPLS) コース講習会. 公益社団法人日本小児科学会; 講師. 2025.7.20.
- 5) 【学会誌編集委員会企画】査読者に学ぶ! よい“医学教育論文”の書き方ワークショップ!. 第57回日本医学教育学会大会 ワークショップ 8; ファシリテーター. 2025.7.25.
- 6) 医学教育研究の基本を学ぶワークショップ. 第57回日本医学教育学会大会 ワークショップ 21; ファシリテーター. 2025.7.26.
- 7) 日本医学教育学会の未来を共に考える: 新しい視点からのニーズ発見ワークショップ. 第57回日本医学教育学会大会 ワークショップ 28; ファシリテーター. 2025.7.26.

宮地由佳

- 1) 日本緩和医療学会における FACULTY DEVELOPMENT プログラムの開発. 第30回日本緩和医療学会学術大会委員会企画 8; 講師. 2025.7.4.
- 2) 院内や地域の勉強会を効果的にデザインするには: 理論と実践を学ぶ. 第30回日本緩和医療学会学術大会ワークショップ 6; 講師. 2025.7.5.
- 3) 【学会誌編集委員会企画】査読者に学ぶ! よい“医学教育論文”の書き方ワークショップ!. 第57回日本医学教育学会大会 ワークショップ 8; ファシリテーター. 2025.7.25.
- 4) 医学教育研究の基本を学ぶワークショップ. 第57回日本医学教育学会大会 ワークショップ 21; ファシリテーター. 2025.7.26.
- 5) JSMEFRINGE: 参加者が伝統的な形式を超えて革新的で多様なプレゼンテーションを体験する双方向型ワークショップ. 第57回日本医学教育学会大会 ワークショップ 44; ファシリテーター. 2025.7.27.

学術賞等の受賞

なし

学術雑誌

西城卓也

- 1) 日本医学教育学会 編集委員会: 副編集長 (～現在)
- 2) Korean Journal of Medical Education: Editorial Board (2017年～現在)

早川佳穂

- 1) 新しい医学教育の流れ: 編集委員 (～現在)

高橋美裕希

- 1) 日本医学教育学会: 代議員 (2023年～現在)
- 2) 日本内科学会東海地方会: 評議員 (2017年～現在)

野村理

- 1) 日本医学教育学会 編集委員会: 編集委員 (2024年～現在)
- 2) 日本医療教授システム学会: 編集委員 (2017年～現在)
- 3) 新しい医学教育の流れ: 編集委員 (～現在)

宮地由佳

- 1) 日本医学教育学会 編集委員会: 編集委員 (2023年～現在)
- 2) Perspectives on Medical Education: Associate Editor (2025年～現在)
- 3) 新しい医学教育の流れ: 編集委員 (2025年～現在)

学術学会の役員・委員等

西城卓也

- 1) 日本プライマリ・ケア連合学会: 中部地区代議員
- 2) 一般社団法人日本医学教育評価機構: 評価員
- 3) 日本医学教育学会: 代議員, 理事, 学会誌編集委員会副委員長, 研究推進委員会 オブザーバー, 医学教育モデル・コア・カリキュラム調査研究特別委員会委員, 若手による医学教育とそのキャリア支援部会長

川上ちひろ

- 1) 日本医学教育学会: 代議員, 医学教育専門家ポर्टフォリオ班
- 2) 県立学校における性教育推進協議会: 委員

早川佳穂

- 1) 医療系 e ラーニング全国交流会: 世話人
- 2) 日本医療コミュニケーション学会: 運営委員
- 3) ヘルスコミュニケーション学関連学会機構: 代議員

鈴木康之

- 1) 日本医学教育学会: 監事
- 2) 日本小児科学会: 小児科サブスペシャリティ領域協議会委員長
- 3) 日本小児医学教育研究会: 幹事

高橋美裕希

- 1) 愛知医科大学カリキュラム検討部門委員会: 外部委員

野村理

- 1) 日本小児科学会: JPLS 委員会, 生涯教育・専門医育成委員会, 英文誌編集委員会
- 2) 日本医学教育学会: 代議員, 編集委員会委員, 研究推進委員会委員

宮地由佳

- 1) 文部科学省: 今後の医学教育の在り方に関する検討会:委員
- 2) 厚生労働省: 医道審議会医師分科会医師臨床研修部会, 共用試験部会:委員
- 3) 日本医学教育学会: 代議員, 編集委員会委員, 研究推進委員会委員, 学会国際化委員会委員, 将来構想特別委員会委員長, 医学教育賞等特別委員会委員, 医学教育モデル・コア・カリキュラム運用特別委員会委員, APMEC2027 運営特別委員会委員
- 4) 日本緩和医療学会: 専門医育成・教育委員会委員, Faculty Development WPG 委員

社会活動

西城卓也

- 1) NPO 法人卒後臨床研修評価機構: サーベイヤー (～現在)
- 2) 京都大学医学部: 客員研究員 (～現在)
- 3) 医療法人かがやき 総合在宅医療クリニック: 非常勤医師 (～現在)
- 4) 清流の国岐阜総合診療専門研修プログラム管理委員会: 委員 (2017 年度～現在)
- 5) 愛知医科大学医学部カリキュラム評価委員会: 外部委員 (2019 年 4 月～現在)

川上ちひろ

- 1) 社会医療法人聖泉会聖十字病院: 倫理審査委員会委員 (2018 年～現在)
- 2) 訪問看護ステーションサーラ: 非常勤看護師 (保健師) (2007 年～現在)

早川佳穂

- 1) 朝日大学歯科衛生士専門学校: 非常勤講師 (2021 年 10 月～現在)
- 2) 東洋学園国際医学技術専門学校: 非常勤講師 (2021 年 4 月～現在)
- 3) 岐阜県立衛生専門学校歯科技工士学科: 外部講師 (2024 年 4 月～現在)
- 4) 平成医療短期大学: 非常勤講師 (2024 年 10 月～現在)
- 5) 一般社団法人日本 SP 協会: SP トレーナー (～現在)
- 6) 放送大学岐阜学習センター: 非常勤講師 (2025 年 12 月～現在)

鈴木康之

- 1) 日本ムコ多糖症親の会: 顧問 (～現在)
- 2) ALD 親の会: 顧問 (～現在)
- 3) 一般社団法人日本医学教育評価機構: 評価員 (～現在)

高橋美裕希

- 1) キャリア教育授業 愛知淑徳高校: 講師 (2023年10月～2024年10月)

野村理

- 1) 公益社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構: 医学系 OSCE 到達基準検討委員会委員
- 2) 横浜市立大学: 客員准教授
- 3) 富山大学医学部: 協力研究員
- 4) 弘前大学大学院医学研究科: 客員研究員

宮地由佳

- 1) 名古屋大学大学院医学系研究科: 客員研究者 (2025年～現在)
- 2) 米原市地域包括医療福祉センター近江診療所: 非常勤医師 (2024年～現在)

専門医等

西城卓也

- 1) 厚生労働省臨床研修指導医
- 2) プライマリ・ケア連合学会認定医・認定指導医
- 3) 日本医学教育学会認定医学教育専門家
- 4) 日本専門医機構総合診療領域特任指導医

川上ちひろ

- 1) 日本医学教育学会認定医学教育専門家

鈴木康之

- 1) 日本小児科学会専門医
- 2) 厚生労働省臨床研修指導医
- 3) 日本医学教育学会認定医学教育専門家

野村理

- 1) 厚生労働省臨床研修指導医
- 2) プライマリ・ケア連合学会認定医・認定指導医
- 3) 日本医学教育学会認定医学教育専門家
- 4) 小児科専門医・指導医
- 5) 救急科専門医・指導医

高橋美裕希

- 1) 厚生労働省臨床研修指導医
- 2) 日本専門医機構総合診療領域特任指導医
- 3) 日本内科学会認定医

4) 臨床研修プログラム責任者

宮地由佳

- 1) 日本内科学会認定医
- 2) プライマリ・ケア連合学会認定医・家庭医療専門医
- 3) 日本緩和医療学会認定医
- 4) 日本医学教育学会認定医学教育専門家

報道

- 1) 高山市と医療者教育 岐阜大医師が報告会. 中日新聞, 2025.4.19.
- 2) 岐阜大 MEDC が開催 医学教育セミナーとワークショップ. 文教速報, 2025.7.14.
- 3) 岐阜大、医学教育開発研究センター 医学教育セミナー・WS 開催. 文教ニュース, 2025.7.21.
- 4) 発達障害の特性がある学生・新人をサポートし、共に働く教育づくり. 医学界新聞, 2025.8.12.
- 5) 高山で飛騨地域の高校生 救急外来の現場 VR 体験. 中日新聞, 2025.8.31.
- 6) 医師など志す人が学ぶ 講座に中高生ら約 10 人. 高山市民時報, 25025.10.6.
- 7) 医療職を目指す中高生向け講座 高山市と岐阜大. 中日新聞, 2025.10.9.
- 8) 岐阜大 MEDC 医学教育セミナー・WS 開催. 文教ニュース, 2026.2.2.
- 9) 岐阜大 MEDC が開催 医学教育セミナーとワークショップ. 文教速報, 2026.2.13.

中日新聞
2025.4.19(土)

高山市と医療者教育 岐阜大医師が報告会

研修医と懇談も

高山市と岐阜大が昨春から共同で進めている医療者教育事業の報告会が17日、市役所で開かれた。

市は医療人材不足を補お



寄付講座の成果について語る
高橋医師ら＝高山市役所で

ると、2024年度から岐阜大の寄付講座を開設。同大の医師2人が、市内の病院で学生や医師を指導している。

報告会では、市内をフィールドにした学生の研究成果や、市民向けの公開講座などについて報告した。本年度は、仮想現実（VR）を利用した高校生向けの救急医療体験などを計画しており、高橋美裕希特任准教授は「行政や地域と行う新しい医療者教育が、他地域のモデルケースとなる

ように進めていく」と今後の活動の展望を語った。

この日は、今月から高山赤十字病院（同市天満町）と久美愛厚生病院（同市中切町）で働く研修医との懇談会もあり、参加者は「できるだけ早く地域医療の戦力になりたい」などと意欲を語った。（村瀬美空）

文教速報
2025.7.14(月)

岐阜大MEDCが開催 医学教育セミナーとワークショップ

岐阜大学医学教育開発研究センター（MEDC）は東京・国立オリンピック記念青少年総合センターで、「医学教育セミナーとワークショップ」をこのほど開催した。MEDCが第4期医学教育共同利用拠点として認可更新後、初主催となる。全国から236名が参加し、活発な議論と交流が行われた。

91回目となる今回のセミナーでは、新たな試みとして「MEDPark（メドパーク）」という学習者参加型の企画を実施し「写真Ⅱ」。『医療系大学の学生と育みたい新たな資質・能力とその評価』というテーマのもと、①学習者参加型の学び、②学習に繋がる評価、③今後育みたい新たな資質や能力の三つのセッションを行った。

参加者からは「想像していたよりも大規模で、参加型の学びがとて良かった」といった声が寄せられた。さらに、同時開催していた「国公立立大学医学部・歯学部教務事務職員研修」の47名も企画に参加し、それぞれ

の立場からの意見交換を行った。

「教職員と事務職員が意見交換を行う機会は非常に興味深かった」との感想も寄せられ、教員・事務職員がともに医療者教育の諸課題に取り組む貴重な機会となった。

ワークショップでも、医学教育・研究に関する九つのテーマを取り上げ、活発な意見交換が行われた。次回の医学教育セミナーとワークショップは、11月27日・28日に鹿児島大学桜ヶ丘キャンパスで開催する。参加申込は8月初旬より、MEDCホームページで受け付ける。

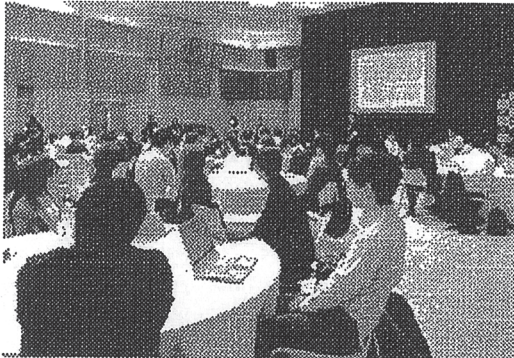


岐阜大、医学教育開発研究センター

医学教育セミナー・WS開催

岐阜大学医学教育開発研究センター(MEDC)は5月29～31日にかけて、東京・国立オリンピック記念青少年総合センターで、「第91回医学教育セミナーとワークショップ」を開催した。MEDCが第四期医学教育共同利用拠点として認可更新後、初主催となる。全国から236名が参加し、活発な議論と交流が行われた。

今回セミナーでは、新たな試みとして「MEDPark(メドパーク)」という学習者参加型の企画を実施し写真。「医療系大学の学生と育みたい新たな資質・能力とその評価」というテーマのもと、「学習者参加型の学び」「学習に繋がる評価」「今後育みたい新たな資質や能力」の3つのセッションを行った。さらに、同時開催していた「第26回国



公私立大学医学部・歯学部教務事務職員研修」の47名も参加し、それぞれの立場から意見交換を行った。ワークショップにおいても、医学教育・研究に関する9つのテーマを取り上げ、活発な意見交換が行われた。

文教ニュース
2025.7.21(月)

救急外来の現場 VR体験

高山で飛騨地域の高校生

飛騨地域の高校生に医療職への理解を深めてもらう講座が30日、高山市役所であった。今年で5回目となる市主催の「飛騨メディカルハイスクール」の一環で、参加者が手術や救急外来の現場を疑似体験した。

VRゴーグルを着けて救急医療を疑似体験する高校生。高山市役所で

この日は岐阜大医学部の教員3人と学生5人を講師に招き、生徒26人が参加した。同大が講座を受け持つのは昨年に続いて2回目。傷口を縫い合わせる外科手術のほか、腹部を内視鏡で直接診るシミュレーションと仮想現実(VR)ゴーグルを用いて救急外来の現場を疑似体験できるブースを新たに加えた。

医学部の教育で実際に使う道具で参加者らは集中して臨み、講師が吸収の早さに舌を巻いていた。薬剤師を目指している高山西高1年の清水彩那さん(16)は「最初は難しかったけど、だんだん慣れてきた。実際に体験できるのが学びになる」と話した。

(徳永真之介)

中日新聞
2025.8.31(日)

医療職を目指す 中高生向け講座

高山市と岐阜大

医療職を目指す中高生に
大学で学ぶ内容を知ってもらおうと、高山市役所で5
日に市民公開講座が開かれ
た。市と岐阜大が昨春から
共同で進める医療者教育事



自身の体験を交えながら
高校生室の相談に乗る医
学部生ら―高山市役所で

業の一環で、中高生ら約10
人が大学生活に期待を膨ら
ませた。

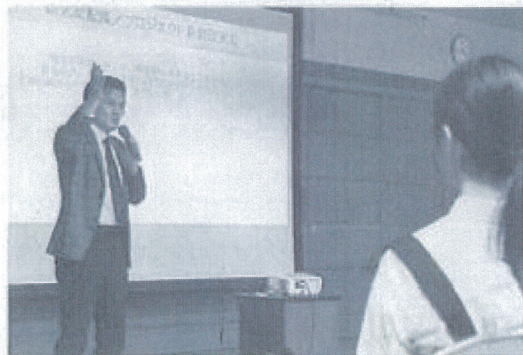
岐阜大医学部医学科の西
城卓也教授は、医者を目指
す学生の心構えを「勉強が
できる選ばれし者だと思っ
てではなく、目の前の患者
に共感できることが大切」
と強調。岐阜協立大看護学
部の遠渡絹代准教授は、看
護職の役割や魅力を説明し
た。

講義後の個別相談会で
は、岐阜大医学部の学生が
自身の受験経験を交えて助
言。参加した斐太高校3年
の向川原怜子さん(17)は
「医者には人となりや広い
教養が必要だとわかった。
憧れが明確になったので、
あとは勉強するだけ」と笑
顔で話した。(村瀬美空)

中日新聞
2025.10.9(木)

高山市民時報
2025.10.6(月)

医師など志す人が学ぶ
講座に中高生ら約10人
医療の道を志す人たち
に向け、大学での学びや
仕事について紹介する市
民公開講座が5日に市役
所で開かれた。
市からの寄付を基に岐
阜大が開設する「地域共
創型飛騨高山医療者教育



学講座」の一環。飛騨地
域の中高生ら約10人が参
加し、同大医学部の西城
卓也教授と、岐阜協立大
看護学部の遠渡絹代准教
授が講師を務めた。
西城教授は、岐阜大で
取り入れているバーチャ
ル教材などを用いた解剖
学や患者診療を紹介し
た。また「人間の病気
は、それぞれの暮らしや
育ち、年齢の積み重ねが

あって起こることが多
い」と話し、医師に必要
なのは知識や技術だけ
なく、患者の生活の背景
に目を向ける想像力だと
強調した(左上写真)。

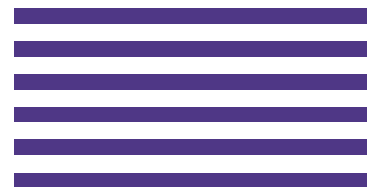
また、遠渡准教授は、
看護師を目指すためのさ
まざまな進路のメリット
とデメリットや、成人と
老年、精神などの看護学
分野、実習について説明
した。日頃から社会情勢
に関心を持ったり、自
分の思いを身近な人に
伝えたりすることが、
受験での面接はもとよ
り現場でも生かされる
とも伝えた。

質疑には岐阜大の医
学部生も参加し、高校
1年からやっておくべ
きことについて「小テ
ストや英単語の暗記に
力を入れると良いと思
います」などと答えて
いた。

拠点活動

拠点活動

そら —学びの宙の報告—



スターターキット

これから医療者教育学に関わることが多くなるかという教職員のためのeラーニングです。いつでも履修できます。

セミナーとワークショップ

これまでのべ1万3千人以上の方に参加していただいている、我々の代名詞の企画。新しい医療教育の開発研究と普及を促すべく、年2回開催する全国セミナーです。

メドギフト

ちょっと深く学んでみたくなりそうな方にピッタリのプログラムです。約4か月間のコースで、連続する課題を通じて、自身の教育実践の省察や受講者との楽しい議論を通して学べます。

指導者の教育力アップを目指して

MEDCは共同利用拠点として、全国の指導者の指導力向上という大きなミッションのひとつを目指して活動しています。医学のみならず、歯学・薬学・看護学・理学／作業療法学等の専門職が集い、協働的に学べる場を提供しています。しかし教育を学ぶニーズも、学びたいタイミングも人によりそれぞれです。

そこで、我々は、あらゆる医療者の指導的役割と段階に合わせた様々な教育プログラムを構築しています。それらを総称して、学びの宙(そら)と名付けました。これらを通じて、連続的かつ体系的で、職種横断的な学びの旅に参加できることでしょう。

医療者教育スターターキット

Starter Kit for Health Professions Educators

新任教職員・指導者むけ



紹介動画の視聴やコンテンツ、受講登録方法など詳細が確認できます。

概要

医療者教育スターターキットは、医療者教育学の基本を学ぶためのeラーニングプログラムです。医療者教育機関で働き始めたばかりの教員や職員、またこれから医療者教育学を学ぼうとする教職員を対象として、MEDCが開発しました。2021年12月より「医療者教育スターターキット」として公開されています。

2025年度からの文部科学省・医学教育共同利用拠点（第4期事業）の開始に合わせて、教育現場で求められる実践力や基礎知識の習得に役立つプログラムとなるよう、内容を再構成した「シン・医療者教育スターターキット」を提供しました。医療者教育の全体像を俯瞰し、教育方法、評価、学習者支援、教職協働などを体系的に学ぶことができます。全12本の短時間動画シリーズ（各5～6分）で構成されており、通勤中や休憩時間などのすきま時間に学習可能です。総学習時間は約60～70分です。

MEDC 担当教職員

早川佳穂 西城卓也 川上ちひろ 野村理
宮地由佳 木原美波 高橋美裕希
若井仁美 福田ゆう 高橋琴乃 高田晴美
松岡由佳

特色・報告

FD/SDプログラムとしての導入

医療者教育機関に対して、スターターキットを用いてFD/SDプログラム導入を推進し、機関利用に向けた運用・マネジメントの支援を行いました。2025年度は、医学9校、歯学1校、薬学1校、リハビリテーション系1校でFD/SD活動にご活用いただきました。

また、第92回医学教育セミナーとワークショップ（MEDTaaalk）において、「シン・医療者教育スターターキット」を活用したオンライン学習企画を開催しました。

教務事務研修内での活用

第26回国公立大学医学部・歯学部教務事務職員研修の事前学習教材として活用し、47名が受講しました。

利用実績

スターターキット

2021年より開始された一般公開での個人利用と2026年3月末までのFD/SD機関利用を含め、2,000名以上が登録し、累計862名（うち2025年度登録者134名）が修了しました。

シン・スターターキット

2025年より開始された一般公開での個人受講と2026年3月末までのFD/SD機関利用を含め、900名以上が登録し、388名が修了しました。

今後の課題と抱負

2026年度は、シン・医療者教育スターターキットの機関利用を本格的に実施し、FD/SD機関利用の支援を通し、全国のFD/SDのさらなる発展に貢献します。

医学教育セミナーとワークショップ

Seminars and Workshops in Medical Education

最新的话题を学びたい方むけ



これまでの医学教育セミナーとワークショップや、最新の開催情報を確認できます。

概要

MEDCでは、全国共同利用拠点として、医療者教育の普及とおよび新しい医療者教育の開発・研究を促進することを目的に、Faculty Development (FD) / Staff Development (SD) として、「医学教育セミナーとワークショップ」を定期的に開催しています。

2025年度より、春・秋の年2回開催とし、春は主要都市での開催に加えて教務事務研修 (p.40 参照) と共催しています。秋は全国の医療系大学との共催とすることで、より幅広い医療者教育関係者とともに、多職種の参加者に向けて、時代のニーズに即したテーマのFD/SDを提供しています。

MEDC 担当教職員

西城卓也 川上ちひろ 野村理 宮地由佳
早川佳穂 木原美波 高橋美裕希
若井仁美 福田ゆう 藤井梨恵子 窪田恭子
高橋琴乃 高田晴美 松岡由佳 斉藤麻矢

第91回 医学教育セミナーとワークショップ

【日程】5月29日～31日

【開催地】国立オリンピック記念青少年総合センター

【参加人数】参加者236名 講師52名

第26回 国公立大学医学部・歯学部教務事務職員研修との併催で開催し、第4期拠点事業の新企画として、「MEDPark」「MEDStudio」を実施しました。「MEDPark」は、医療系学生の教育に携わる教職員および関係者を対象に、複数のテーマに基づくミニレクチャーを踏まえながら、多様な参加者がそれぞれの視点や考えを共有し、意見交換することを目的とした企画です。教務事務研修の受講者も参加し、活発な議論が行われました。

「MEDStudio」は、教育実践に関する演題を募集し、発表後にカジュアルな雰囲気でのディスカッションを行うことで、日々の教育実践を振り返り、改善のヒントを得ていただくことを目的とした企画です。今回は13演題が発表されました。

第92回 医学教育セミナーとワークショップ in 鹿児島大学

【日程】10月27・28日

【開催地】鹿児島大学

【参加人数】参加者149名 講師33名

鹿児島大学との共催で、対面・ハイブリッド開催しました。1つのセミナーと5テーマのワークショップを実施しました。また、5つのMEDTaaalk（オンラインウェビナー）を鹿児島から配信しました。

今後の課題と抱負

対面開催のニーズに応え、春の主要都市での開催と秋の地方大学との共催を継続します。地方開催の場合はWeb企画を準備することでいろいろなニーズに応えられるFD/SDを提供していきたいです。

アソシエイト会員制度

Associate Membership

学びの^{そら}宙を頻繁にご活用される方へ



アソシエイト会員認定に必要な単位（ポイント）の詳細などをご確認できます。

概要

アソシエイト会員認定制度はフェローシッププログラム（p.36参照）の1つとなります。MEDC主催の医学教育セミナーとワークショップの各領域の企画に一定数参加され医学教育の基本を学ばれた方をアソシエイトとして認定する制度となっています。医学教育の基本領域として、教育方法（TL: Teaching and Learning）、評価（A: Assessment）、カリキュラム開発（CD: Curriculum Development）、運営/リーダーシップ（ML: Management/Leadership）、研究（R: Research）の5つが設定されており、要件に定められた単位を取得することで認定されます。

MEDC 担当教職員

早川佳穂 西城卓也 川上ちひろ 野村理
若井仁美 福田ゆう 高田晴美

2025年度の認定者

2025年度は12名がアソシエイトとして認定されました。職種の内訳は医師6名、歯科医師2名、薬剤師1名、看護師1名、その他2名となっています。

多職種にひろがるアソシエイト認定者

2016年に初めての認定者が誕生以来、9年目となるこの制度ですが、本年度、認定者が137名となりました。職種の内訳は医師59名、歯科医師18名、薬剤師7名、看護師21名、理学/作業療法士8名、その他24名と多職種にわたっています。

新企画「MEDStudio」での発表

第91回医学教育セミナーとワークショップの新企画「MEDStudio」では、初回開催として、アソシエイト/フェロー認定者を対象に演題を募集し、ご発表いただきました。

今後の課題と抱負

アソシエイト認定者のみなさまと継続的に学んだり、交流できる機会を提供できるように企画を準備しています。MEDCのアソシエイトは多職種での交流が特色でもあり、ともに学ぶ企画を提供していきたいです。

フェローシッププログラム

Fellowship Program

自らの教育実践をもとに医療者教育を学びたい！



フェローシッププログラムの最新のコース「メドギフト」の詳細が確認できます。

概要

フェローシッププログラムは全国の医療者教育者向けにMEDCが提供するプログラムで（文部科学省共同利用拠点第2期事業）継続的かつ体系的に医療者教育者の能力開発を支援するFDです。具体的には「アソシエイト認定（p.35参照）」とオンラインコース「メドギフト」の修了で「MEDCフェロー」として認定されるプログラムです。

本項目では主に自身の教育実践を振り返り、多職種の受講者間で意見交換をしながら医療者教育について学ぶ「メドギフト2025」に関して報告します。

MEDC 担当教職員

早川佳穂 西城卓也 川上ちひろ
若井仁美 福田ゆう 松岡由佳 斉藤麻矢

特色・報告

メドギフト2025

2025年3月10日～6月13日の期間で実施し、医師9名、薬剤師1名、看護師3名、理学／作業療法士2名、その他3名の計18名が受講しました。学習管理システムのMoodleを利用し、教育方法、学習評価、プログラム評価などの基本を受講者自身の教育実践の振り返りや受講者同志のオンライン上でのディスカッションを通して共に学びました。

また、今年度もオンラインワークショップを年2回開催し参加を必須としました。第1回はキックオフミーティングとして4月4日に実施し、今後ともに学ぶクラスメンバーとの交流を深めました。第2回は6月13日にまとめの会として開催し、「明日からの教育実践」をテーマに発表とディスカッションを行いました。

MEDCフェロー

令和7年度も多職種の7名がMEDCフェローとして認定され、総計85名となりました。

今後の課題と抱負

今年度を多くの職種の皆様にメドギフトをご受講いただきました。また5月に実施したセミナーとワークショップでは、メドギフトを修了した方が中心になって、受講後の自身の教育実践を報告する企画（MEDStudio）を行うことができました。このように、継続的な交流と学びができるような機会や企画を提供していきたいです。

医療者教育デザイナー養成講座

「らいちょう」

RAICHO: A Training Program for Designers in Health

医療者教育の現場を鳥瞰し、改善する



医療者教育デザイナー養成講座「らいちょう」の最新の情報が確認できます。

概要

文部科学省認定の共同利用拠点（医学教育）である岐阜大学医学教育開発研究センター（MEDC）が、第4期新規事業の中核事業として2025年度から実施した医療者教育デザイナー養成講座「らいちょう」のワークショップの設計と実践を報告する。本講座は、システム思考とデザイン思考の体得を目標に構成しており、医療の臨床や教育現場で働く教育者を対象に、現場の多職種と共創しながら医療者教育の複雑な現状の問題に対応できる人材育成を目的にしている。講座開始にあたりコンピテンシーを設定し、複数の学習管理システムを活用した学習環境を構築し、2025年秋にワークショップを実施した。医療系の教育現場を鳥瞰的にみることができて、問題分析と改善を推進する多職種の教育者が輩出されることが期待される。

MEDC 担当教職員

川上ちひろ 早川佳穂 高橋美裕希 宮地由佳
木原美波 野村理 西城卓也
若井仁美 福田ゆう 高橋琴乃 高田晴美

特色・報告

「らいちょう」は、事前学習（オリジナル動画、関連書籍）、ワークショップ（2025年度は2025年11月21日～23日に岐阜にて実施）、フォローアップ（2026年2月27日、2時間程度実施）の構成で講座を実施した。外部からの講師として、これまでにシステム思考やデザイン思考を用いた現場の問題解決のための実践的な思考方法のワークショップの講師を数多く実施してきている中田実紀子氏、田中康平氏を招聘した。ワークショップでは、事前に準備した架空の教育における問題事例「業務負荷・対応変化の難しさ」「対人関係・コミュニケーションの悩み」「自己成長や成果へのプレッシャー」「役割とスキル・経験のギャップ」から、参加者が現段階で、一番問題だと感じているものを選択して取り組んでもらった。これは、らいちょう式デザイン思考の最初のステップである「想う（一般的なデザイン思考の共感にあたる）」に該当するものである。講座全体でデザイン思考のステップを踏みながら、多職種のグループメンバーで改善策を構築できるよう工夫した。フォローアップでは、ワークショップで学んだことを生かしながら、それぞれの職場で実践したことを発表し交流した。

今後の課題と抱負

今年度は新講座開催の初年度であったため、「らいちょう」のプログラム評価を適切に実施し、さらに参加者からのフィードバックを参考に来年度以降の講座のブラッシュアップを図りたい。また、参加者には継続的な交流と学びができるような機会や企画を今後も計画していきたい。

MEDCast(メドキャスト)

MEDCast

スキマ時間に、好きな方法で学べます！



MEDCastのスケジュール・
内容が確認できます。

概要

MEDCastは2025年から全国の医療者教育者向けにMEDCが提供するプログラム（文部科学省共同利用拠点第4期事業）です。忙しい医療者教育者の個人学習を支援するFDで、MEDCがナビゲートするオンラインウェビナー企画です。開催当日にリアルタイム参加すれば、オンラインでの質疑応答や交流が可能です。画面を見られない場合もポッドキャストとして聞くだけで学べたり、後日、アーカイブ配信をじっくり学習し直したり、多様な学びの機会を提供しています。

特色・報告

MEDCast2025

2025年度は、以下、年間6回のウェビナー企画を実施しました。受講される方々のライフスタイルやニーズを事後アンケートで確認しながら、昼休みや勤務後の時間など、様々な時間に企画、開催してきました。

MEDC 担当教職員

宮地由佳 早川佳穂 西城卓也 川上ちひろ
野村理 高橋美裕希 木原美波
若井仁美 福田ゆう 高橋琴乃 高田晴美
松岡由佳 齊藤麻矢

第1回 「教員や指導者の指導力を高める：プログラムと実践的コツ」

実施日時：7月10日（木）19:00-20:00

参加者数：225人

第2回 「医療者教育 Co-creation（共創）深読み会議！」

実施日時：8月1日（金）18:00-19:00

参加者数：214人

第3回 「コンピテンシー基盤型教育をニューロダイバーシティの視点から考える」

実施日時：9月3日（水）13:30-14:30

参加者数：235人

第4回 「ともに創る医療者教育 — 小さな対話から始める教職協働」

実施日時：10月8日（水）13:00-14:00

参加者数：200人

第5回 「クリスマスに考えるアドボカシー教育と実践—今から始めるためのヒント」

実施日時：12月24日（水）12:00-13:00

参加者数：215人

第6回 「コンピテンシー、正直よくわからない」あなたへ。～CBMEのモヤモヤをAIと読み解く60分～

実施日時：2月19日（木）12:00-13:00

参加者数：324人

今後の課題と抱負

今年度からの新企画でしたが、多くの皆様にMEDCastをご受講いただくことができました。これからも日頃の疑問やモヤモヤにフィットする企画と多忙な医療者教育の皆様へ柔軟で多様な学びの機会を提供していきます。

MEDC機関誌

新しい医学教育の流れ

Trends in Medical Education

医学教育の潮流を知りたい方向け



過去に「医学教育セミナーとワークショップ」に参加された方は、アーカイブ閲覧が可能です。2026年度からは、すべての方が閲覧可能になる予定です。

概要

医療人の育成および教育に関する活動報告や情報提供、意見交換を目的とした機関誌として、MEDCは「新しい医学教育の流れ」を発刊してきました。これまで医学教育セミナーとワークショップの報告書としての特色が強かった本誌は、2015年（15巻1号）より、医療者教育に携わる方々からの活動報告や総説、意見などの論文を掲載する機関誌として刷新を図り、2020年（第20巻2号）にはオンラインジャーナルとして発刊しています。2025年度は、「医学教育セミナーとワークショップ」の開催にあわせて、2号を発刊しました。

MEDC 編集担当教職員

野村理 早川佳穂 宮地由佳 川上うちひろ
西城卓也 藤井梨恵子 清水純子

特色・報告

オンラインジャーナル

冊子体として発刊していた機関誌をオンラインジャーナル化することで、利用者の本誌へのアクセス・利便性を高めることができました。

掲載論文

2025年度は、「主張」に英語論文が初めて掲載されました。また、「セミナーとワークショップ」の報告では、第91回医学教育セミナーとワークショップ（併催：第26回国公立大学医学部・歯学部教務事務職員研修）での新企画であるMEDPark、MEDStudioの報告があることも特徴となります。

今後の課題と抱負

本誌を広い読者に届けるために、「医学教育セミナーとワークショップ」に参加された方以外の方のみならず、すべての方への公開をHP上で2026年度から開始する予定です。また、それに合わせて投稿規定も改訂し、より多くの方に投稿いただき、読者との活発な議論がなされるような雑誌に成長させていきたいと考えています。

教務事務研修

Staff Development

医療者教育に携わる事務の方へ



対象・期間

国公立大学医学部歯学部
教務事務職員研修
5月29日～5月30日

概要

国公立大学医学部・歯学部教務事務職員研修（教務事務研修）は国立大学医学部長会議の教育制度・カリキュラムに関する委員会と全国医学部長病院長会議医学教育委員会の主催で、2001年に岐阜大学に全国共同利用施設として医学教育開発研究センター（MEDC）が設立されて以降、年に一度、開催されている研修会です。2021年度からZoomやMoodleを駆使したWeb開催となりましたが、2025年度は5年ぶりに2日間の講習を東京で現地開催しました。

MEDC 担当教職員

西城卓也 早川佳穂 川上ちひろ 高橋美裕希
若井仁美 福田ゆう 高田晴美

特色・報告

開催報告

今年度は東京科学大学 鶴田潤先生、愛知学院大学 鈴木一吉先生、東京医科大学 山口佳子先生を講師にお迎えし、MEDC教員とともに実施いたしました。「医学部・歯学部 カリキュラムの鳥瞰図」の講義のほか、「ICT・AI」「学習者支援とアンプロフェッショナルへの対応」についての班別討議、ワールドカフェ等を行い活発な意見交換を行いました。

FDとSDの融合

医学教育セミナーと共催し、WSに参加している教員や臨床現場での指導者と協働のプログラムとMEDPark（メドパーク）「医療系大学の学生と育みたい新たな資質・能力とその評価」を開催しました。教員と職員が共に聴き、同じテーブルで話し合い、共創的に学びをえる、まさにFDとSDが融合した機会となりました。今回は、別項でも紹介しているスターターキットを事前に視聴していただき、研修の事前準備を進め、実りある対面のセッションを創ることができました。

今後の課題と抱負

全国共同利用拠点第3期事業のテーマ「FDとSDの融合」を今4期ではさらに発展させ、教員と交流がともに医療者教育を考える機会と、協働的に働ける環境を提供していくことを目指します

ホームページ／SNS (Facebook・X・Instagram)

Home Page/SNS (Facebook・X・Instagram)

Web/SNSを活用した医療者教育の発信



特色・報告

MEDCのホームページ
～MEDCは、医療者教育の新しい潮流を創ることに挑戦し続けています～
<https://www1.gifu-u.ac.jp/~medc/>

MEDCのトップページは、MEDCの紹介に加えて、MEDCが提供する「医療者教育の学びの宙」およびオンラインジャーナル「新しい医学教育の流れ」へアクセスしやすい構成としています。「医療者教育の学びの宙」のコンテンツとしては、医療者の指導的役割や段階に応じて学べる各種教育プログラムのページを設けています。具体的には、「医学教育セミナーとワークショップ」「教務事務職員研修」「アソシエイト認定制度」「フェローシッププログラム」「シン・医療者教育スターターキット」等を掲載し、医療者教育を学びたい方のニーズに合わせたプログラム案内と最新情報を提供しています。あわせて、今年度からの新プログラムである「らいちょう」「MEDCast」の情報も追加しました。また、大学院の紹介として「医療者教育学専攻修士課程」「医学教育学博士課程」のページを設け、それぞれの特色や卒業生の声なども発信しています。

さらに、令和4年度より、セミナーとワークショップの受講者・講師が資料を共有できるスペースを含む「マイスペース」を提供しており、受講状況やアソシエイトポイントを確認しやすい環境を整えています。今後も、医療者教育に関わる方々の学びへの入り口として、継続的に更新していきたいと考えています。

MEDC 担当教職員

早川佳穂 若井仁美 福田ゆう 高橋琴乃

特色・報告

Facebook

Facebookでは、MEDCで企画しているイベントの告知や、実施報告を行っています。随時情報を発信しており、申し込みサイトのリンクを添付していますので、申し込みをしていただけます。



X

2020年からX（旧Twitter）を開始し、教員や博士課程の学生の論文紹介など行っています。SNSの情報発信を通じて、皆さんとのつながりを作っていきたいと思っています。



Instagram

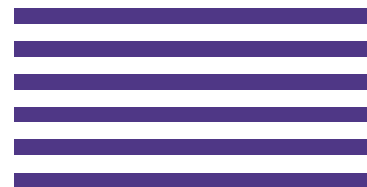
今年度、Instagramを新たに開設し、Facebookと同様にイベントの告知や情報発信を開始しました。



大学院教育

大学院

—教育研究の推進—



博士課程

医学教育・医療者教育に関する国際学術誌に研究論文を掲載すべく、これまで築いた研究者との国際的なネットワークを生かしながら、協働的・学際的にハイレベルな研究指導を行う体制を築いています。

修士課程

医療の質向上に寄与する医療者教育を展開し先導すべく、多職種の人材と連携しながら、医療者教育に貢献できる人材を育成するための課程です。

研究領域

原則として、履修生の教育実践やこれまでの経験から研究テーマやリサーチクエスチョンを設定して、研究指導を進めています。特に、質的研究方法や理論的枠組みを用いた研究デザインに力を入れています。

大学院医学系研究科の一部門として

MEDCの教員は、医科学専攻の医学教育分野の博士課程、そして医療者教育学専攻の医療者教育学の修士課程にて、大学院生指導と研究推進を担っています。いずれの課程においても、医師のみならず様々な医療系職種の指導者や、医療系教育機関の教員の方々など広く門戸を開いています。

特に医療者教育学修士課程は、2020年に国内で初めて設立された課程です。卒業生は体系的に医療者教育学と教育研究の基本を学び、修了しています。国内でリーダーシップを発揮し、医療者教育の活動を推進していくべくオピニオンリーダーになることが期待されています。

修士課程(医療者教育学専攻)

Master's course of Health Professions Education

コンピテンシー

教育能力、教育設計力、先導力、協働力、学識の発信力



対象・期間

修士課程1-2年生 12名
4月1日～3月31日

概要

本課程は、1年次で「多職種連携」「教育方法と評価」「日本に相応しい教育設計」「人材育成」「マネジメント」等を教育理論と関連づけながら体系的に学びます。

2年次では、1年次の学びを活かしつつ、自身の教育実践から湧き起こる研究課題を修士論文として取り組みます。

ミッション

本課程は、グローバルな視点を有し、多職種の人材と連携しながら、医療者教育を設計、実践、改善、発信できる能力の持つオピニオンリーダーの育成を目指します。

MEDC 担当教員

西城卓也 宮地由佳 野村理 川上ちひろ
早川佳穂

特色・報告

対面型授業(スクーリング)

25年度のスクーリングは全日程を対面にて開催しました。事前学習により得た知識を、双方向性の議論によって、自分の言葉で話し、またクラスメイトの意見を聞くことにより、深い理解を得ることが目的です。

非同期型学習

スクーリング後、学生は各科目の課題をMicrosoft TeamsやMoodleを活用しながら取り組みました。対面型授業と非同期型e-learningをブレンドすることで、効果的な学習機会を提供することができています。

4期生の修了

24年度入学の4期生6名が、学位審査会を経て本課程を修了することができました。自身の教育実践の場を基盤とした研究を自ら計画し、データを収集・解析し、その結果を論文にまとめるという医療者教育研究の過程を経験しながら、その手法を学ぶ機会となっています。また、4期生から修士研究の学術雑誌への投稿支援を強化したことも特徴であり、複数の英文・和文雑誌に受理されています。

今後の課題と抱負

修了生のキャリア展開の補助となるように、在学中に学術雑誌への論文投稿ができるようなサポート体制構築を初めています。

博士課程(医学教育学分野)

PhD course (Medical Education)

コンピテンシー

研究能力、学識の発信力



対象・期間

博士課程1-4年生
4月1日～3月31日

概要

本課程では、大学院生が各自の教育分野に応じて、独自の研究テーマを設定し、積極的に研究活動を行っています。研究成果の国際誌への掲載を目指し、MEDC教員が研究指導にあたっています。25年度は7名の大学院生（博士課程）が在籍しています。

ミッション

本課程の修了者は、医学教育学の専門家として、教員、医療者、学生等を指導でき、教育システムを自ら構築、改善し、研究を遂行できることを目標としています。

MEDC 担当教員

野村理 宮地由佳 川上ちひろ 早川佳穂
西城卓也

特色・報告

個別のニーズに応じた定期的な研究指導

社会人大学院生として所属先の業務と両立させながら研究を進めていくため、研究計画、データ収集・分析、論文執筆と個々のニーズにあわせながら指導を行っています。研究指導は、対面に加えてオンラインで実施することで忙しい大学院生でも無理なく着実に研究を進められています。本年度は、4年以内の在学で修了生を初めて輩出できたことが大きな実績です。

研究経過の発表の機会

これまでは、博士論文出版以前に、博士プロジェクト研究が教員以外の目に触れる機会はありませんでした。しかしながら、研究の進捗段階から多くの実践者、専門家からフィードバックを受けることは、優れた研究論文には必要不可欠なプロセスです。そのため、毎年9月に開催している岐阜医療者教育研究会で博士課程学生が研究進捗を発表する機会を設け、多くの活発な議論が展開され、それにより、研究進捗も促進されました。

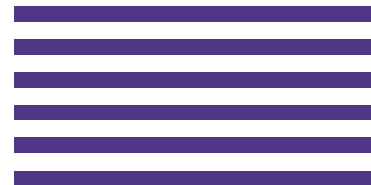
今後の課題と抱負

博士課程学生の着実な研究進捗を支援するために、研究経過について、学会学術大会での発表についても支援していきたいと考えています。

卒前教育

卒前教育

— 医学生の学びを支える —



低学年

地域の住民との交流や施設の訪問などを体験できるearly exposureや、コミュニケーションの基本を学ぶ実習を担っています。

中学年

研究室体験から医療面接の基本や人のライフサイクルを理解するために必要な人文社会学系の授業も取り入れています。

高学年

臨床実習の準備教育を担っています。また、OSCEなどの評価について学部や医師育成推進センターと連携して運営に参画しています。

医学部医学科の一部門として

MEDCは、岐阜大学の医学部の卒前教育にも深く携わっています。岐阜大学医学部は伝統的に問題基盤型のテューリアル教育を主体としたカリキュラムを組んでいます。近年は、それに固執することなく、様々な教育アプローチを積極的に導入し、学生の学びを最大限に引き出すべく、

ICTを駆使した新しい授業や実習を推進しています。MEDCのカバーする科目は実に多様です。我々のネットワークを生かし学内の他講座のみならず、他大学・岐阜県内外の様々な医育機関とのコラボレーションを図ってユニークな授業の提供に努めています。

ヘルスシステム演習

Early Exposure and Health System

コンピテンシー

プロフェッショナリズム、患者・地域理解、多職種連携

対象・期間

対象：医学科1年生

期間：前期 5月～6月、木曜日・金曜日

授業概要

医学部医学科の学生が、入学初期から実際の医療・保健・福祉の現場を見学・体験することにより、医学生としての自覚を高め、勉学への動機付けを図る。

医療・保健・福祉の現場で専門職の方々の指導のもと、現場でどのようなことが行われているのかを知り、将来医療者となる自分が今後何をなすべきかを考える機会をもつ。

第1週目は事前研修を行い、第2～5週は各施設に出向き実習やグループワークで課題に取り組む。第6週目は最終報告会を行い実習での成果を共有する。

学習目標

- ・医療者としてのプロフェッショナリズムの基礎を養う
- ・医療・保健・福祉の対象者や、地域の暮らす人々を包括的に理解する
- ・医療・保健・福祉におけるICTやAIなどの情報科学技術の利用方法を知る
- ・住民や医療スタッフと適切なコミュニケーションができる
- ・医療・保健・福祉に関わるスタッフを知る

MEDC 担当教員

川上ちひろ 西城卓也 高橋美裕希 野村理

宮地由佳 早川佳穂 木原美波

特色・報告

これまで初期体験実習で行ってきた地域の医療機関等への見学・実習を基盤として構成し、さらに地域のヘルスシステム（医療・保健・福祉などのシステム）を理解することを目的にした授業である。また、見学・実習を通じて学生自身が感じた社会や医療の問題を取り上げ、その解決策を提案することを最終課題で求めた。

- ・ **医療者としての態度を養う第1歩となる**
医学科入学直後の授業であり、地域の医療機関等へ訪問をする際の、挨拶などのふるまいや学ぶ姿勢を身につける機会となる。
- ・ **地域の医療機関等、現場での見学・実習を行う**
医療の様子やそこで働く医療等のスタッフ、患者や住民との交流を体験し、実際に行われている医療や現場の様子を感じる。
- ・ **学生が地域の社会や医療における問題を挙げ、その解決方法を考える**
見学・実習を通じて実際に見て感じたことから、社会や医療の問題を抽出する。そして、生成AIなどのツールを用いて解決方法を検討し提案する。

今後の課題と抱負

従来の初期体験実習を改変した新規開講の授業であった。地域の医療機関などとの連携を重要視し、適切な関係を保ちながら授業を実施することが大切である。

教職員側も地域のヘルスシステムの理解を深めつつ、授業運営をすることが求められる。

医療キャリア形成学実習

Practicum in Healthcare Career Development

コンピテンシー

出会う物事や人々との関係性の中で自身の文化を変容させながらキャリア形成を(医学科1年生として)実践できる

対象・期間

対象：医学科1年生

期間：10月2日～11月20日

授業概要

自分自身の文化を省察し、医学、医療、他者の文化や文脈に触れる機会を設け、自身を変容させながらキャリアを形成するプロセスを体験します。この体験によって予期せぬことが起きた際にもしなやかにキャリア形成を継続できる力を養うことを目標としています。

学習目標

- ・キャリアはどのように形成されるのかを説明できる
- ・自分自身の文化（アイデンティティ）を説明できる
- ・他者の文化（アイデンティティ）を知る姿勢を持ち、理解しようとする姿勢を持つ
- ・医療が行われている地域の文化、文化的文脈を理解し、説明することができる
- ・出会う物事や人々との関係性の中で自身の文化を変容させながらキャリア形成を（医学科2年生として）実践できる

MEDC 担当教員

高橋美裕希 西城卓也 川上ちひろ 宮地由佳
野村理 早川佳穂 木原美波

特色・報告

多様な講師の本音を聴き、対話でつくる授業

起業、基礎医学研究、文化人類学、留学…多様なキャリアを形成している講師陣を招き、講話では、成功体験だけでなく、人生の困難な場面でどのように乗り越えてきたのかを含めて「本音」を聴くことができました。

グループディスカッション・オンライン記録

講師講話を聴講後に、3-4名のグループで感想と講師に質問してみたいことを話し合います。グループディスカッションの内容を各グループの学生はその場でTeamsに書き込みました。

講師との対話

グループディスカッションでまとめた感想と質問をグループごとに発表し、講師やその場にいる学生全員と共有し、対話しました。

個人振り返り・手書きシート記入・教員からの返信

最後に、個人でその日のまとめと振り返りを手書きでシートに記入しました。全員の振り返りシートを教員が読み、手書きでコメントを入れて、全員に返却しました。

今後の課題と抱負

「動画で学習できる時代において、講義室に集い対面授業を受ける意義とは何か」をテーマに、録画を行わないことで生まれる率直な意見交換を重視し、大講義室における対面授業に「双方向性」を付与する可能性を学生と共に探究していきます。

医学概論

Introduction to Medicine

コンピテンシー

医学・医療の包括的知識を身につける

対象・期間

対象：医学科1年生

期間：4月10日～7月24日

実習概要

6年間の医学教育課程のスタートとして、医学とは何か、人間の本質とは何か、医学の成り立ち等、多彩な講師によるオムニバス形式で実施されています。

学習内容

MEDCでは以下を担当しています

①「多職種連携医療を体験してみよう」 7/3

特色・報告

コミュニケーション体験

医療を行う上で患者や多（他）職種実習とのコミュニケーションは非常に大切です。6年間の授業や実習でも必要となるコミュニケーションを体験する最初の授業です。

看護学科との合同授業

医療の重要なパートナーの一人となる看護学生と交流できる、学生時代では貴重な授業の機会です。この授業では、他職種の基本が学べるよう、看護学科の教員とも協力して実施しています。

オンラインを取り入れた授業

授業ではICTシステムを取り入れています。スマートフォンで簡単なクイズに答えてもらうなどの工夫をしています。また、Microsoft Teamsで授業の事前アナウンスや感想を記入してもらうなどに利用しました。

今後の課題と抱負

医学生が大学生になり最初に受講する授業ですので、医学・医療とは何かについて、興味を持てるような話題提供ができるようにしたいと考えています。

MEDC 担当教員

川上ちひろ 高橋美裕希 木原美波 西城卓也

テュトーリアル選択配属

Research Experience (Elective)

コンピテンシー

リサーチマインド、批判的思考力、自己学習能力

対象・期間

対象：医学科2年生

期間：1月6日～3月14日

実習概要

10週間で研究計画の立案、実施、分析、発表までを体験する科目です。学生自身が興味のある研究課題を見出し、主体的に研究活動を行います。

学習目標

医学教育学の選択配属では、学生の主体的な研究立案、データ収集・分析、考察、発表といった研究の一連の流れを体験することで、学生の探求心、研究に対する基本的理解の向上やエビデンスに基づく思考力、主体的な学習態度を涵養し、さらにチームメンバーや研究にご協力いただく方との交流を通して、コミュニケーション能力やプロフェッショナリズムを育むことを目標としています。

MEDC 担当教員

野村理 宮地由佳 高橋美裕希 西城卓也

川上ちひろ 早川佳穂 木原美波 鷹羽律紀

特色・報告

主体的な研究活動

学生の問題意識を研究課題にすることで、主体的に取り組める工夫をしています。文献の共有や、分析、資料作成は同期型・非同期型をブレンドし、効率的に研究を進めています。

質的研究/量的研究の経験

研究テーマにあわせて量的研究と質的研究の実施を促しています。

令和7年度のテーマ

- ・医学教育での学習環境評価（MEDCチーム）
- ・移動診療車の医療DXは飛騨高山にどのような変化をもたらすのか（地域共創型飛騨高山医療者教育学講座チーム）

研究成果報告会

期間中の研究成果を3月に学内の報告会で発表しました。

学会発表

選択配属終了後の学生が、「移動診療車の医療DXは飛騨高山にどのような変化をもたらすのか」を令和7年11月の飛騨高山学会で発表を行いました。

今後の課題と抱負

集中して学生が研究に取り組むことで、学習目標の到達に近づく一方で、ここで養った力を継続的にのばしていくことが課題であると考えられます。研究室選択配属終了後のフォローアップにも力を入れていきたいと思っております。

医師患者関係

Doctor-Patient Relationship

コンピテンシー

患者・家族への適切なコミュニケーションスキル
および、心理・社会的背景の理解や配慮

対象・期間

対象：医学科4年生
期間：6月30日～7月4日

実習概要

本授業は、1年生のヘルスケアシステム演習と4年生の臨床実習前OSCEをつなぐ位置づけとして、医師—患者関係および医師—患者間コミュニケーションの基本を、体験学習を通じて学ぶ授業です。

学習目標

本授業では、医師と患者が信頼関係を築きながら診療を進めるために必要なコミュニケーションの基本要素を理解し、他者と議論できることを目指します。あわせて、医療面接がどのように構成されているのかを学び、初診医療面接を実施できる力を養います。加えて、医師—患者関係の基本的な考え方を踏まえ、医療者として求められる態度（敬意、共感、誠実さ、守秘など）について根拠をもって話し合えるようになることを重視します。

MEDC 担当教員

早川佳穂 西城卓也 野村理 川上ちひろ
宮地由佳 高橋美裕希 木原美波

特色・報告

初診の医療面接の基本を学ぶ

臨床実習前OSCEの学習評価項目を基に、動画教材を作成し、授業内教材として活用しました。医療コミュニケーションの基本を学んだ後、医療面接を複数のパートに分け、各パートにおいてレクチャーと相互練習を組み合わせた授業を実施しました。

模擬患者との初診医療面接実習

臨床実習前OSCEと同じような環境で、模擬患者との初診時医療面接を実施し、そのパフォーマンスを教員が評価し、即時フィードバックを行いました。

市民インタビューとシナリオ討議で医師患者関係を学ぶ

市民の方々にご協力いただき、学生はグループでインタビューを行い、医師との信頼関係や共感に関するお考えを伺いました。その後の授業では、共感に関する学びを深めるとともに、シナリオを用いたディスカッションを実施し、医師—患者関係について考えながら学習を進めました。

今後の課題と抱負

昨年に引き続き、学生がアクティブに学んだり、動画教材を活用し、いつでも復習できるように工夫しました。来年度はさらに授業内容を見直し、多様な患者への理解を深めるように改善します。

臨床推論(西洋医学的アプローチ)

Clinical Reasoning

コンピテンシー

医学知識と問題対応能力をつける

対象・期間

対象：医学科4年生

期間：10月6日～10月24日

実習概要

臨床実習準備の一環として、総合内科学等と共同実施している科目です。この実習の直後に始まる参加型臨床実習に必要な知識やスキルの修得だけでなく、医療者としての価値観の土台を作ることをねらいとしています。

学習目標

本コースは臨床実習のどの科でも必要な基本的臨床能力(知識・技能・態度)を身につけることを目標としています。様々な症候・症状に対して、病歴聴取や診察を通じて診断にたどり着く思考力(西洋医学的アプローチ)、そしてその症例呈示ができる力を、日本語だけでなく英語で身につけます。

MEDC 担当教員

宮地由佳 西城卓也 川上ちひろ 早川佳穂
野村理

特色・報告

オンライン化

Microsoft TeamsやWeb会議システムを駆使し、オンライン授業と対面での演習を織り交ぜて実施しています。

様々なエキスパートの招聘

今年度から、生きた英語での病歴聴取や診察のトレーニングのみならず、医学の学び方や医療人としてのあり方について、医療英語の第一人者の一人である押味貴之先生(国際医療福祉大学)から直接学ぶ機会を提供しています。また、同期型のオンライン授業のおかげで、望月礼子先生(鹿児島大学)や高橋慶先生(医療生協さいたま生活協同組合 川口診療所)など、様々な地域からの貴重な講義を継続できています。

模擬カンファレンス

臨床実習での症例カンファレンスで堂々と症例プレゼンテーションし、臨床推論の議論に参加できるよう、模擬症例カンファレンス形式の口頭試問法を開発し実施しています。

今後の課題と抱負

この実習の次の科目が「ライフサイクル」で、症例を社会医学的なレンズから考察する授業を行います。その授業と連動させて、患者の診断に必要な臨床推論(医学)のレンズと社会的レンズから患者さんを見られるよう、カリキュラム開発を進めています。

ライフサイクル

Life cycle

コンピテンシー

人間の生き方を知る、医学知識を問題解決に応用する

対象・期間

対象：医学科4年生

期間：10月27日～10月31日

授業概要

様々なライフサイクルを経る人間の一生を生物心理社会モデルの視点でアセスメントします。そしてそこで起こる問題や課題に対して、これまで学んできた知識を応用して問題解決方法を考えます。

学習目標

多職種で高齢者や家族の支援を議論できる、人の発達の特徴と課題を説明できる、家族のライフサイクルやシステムについて事例を通じて議論できる、情報・科学技術による医療・介護・福祉の変容が予測できることを目標とします。

MEDC 担当教員

川上ちひろ 西城卓也 高橋美裕希 宮地由佳

特色・報告

他の医療系大学との多職種連携授業

岐阜大学医学部医学科は、岐阜県内の他の医療系大学（朝日大学、朝日大学歯科衛生士専門学校、岐阜市立女子短期大学、岐阜薬科大学、平成医療短期大学）と連携授業を行っています（10/27）。

学内の様々な領域の医師との連携

臨床実習で指導いただくことになる精神科、産科婦人科、脳神経内科などの医師に動画教材の作成を依頼することで、臨床実習までに学んでおいてほしい知識の準備をしています。

オンラインを取り入れた授業

多職種連携授業では、Web会議システムを用いて授業を行いました。また、ライフサイクルに関する動画教材を多く作成し、Microsoft Teamsを用い、自己・グループ学習のきっかけをつくっています。また最終日にはグループで作成した課題発表と共有を行います。

今後の課題と抱負

「臨床推論」と関連した授業構成であるため、双方の授業が効果的に学べるような進め方を工夫したいと考えています。動画教材を多く視聴してもらい、グループワークで課題解決を検討するように促していますが、有意義なグループワークができるよう課題提示を工夫したいと考えています。

医療英語・国際交流

Medical English・International communication

コンピテンシー

英語コミュニケーション、異文化対応能力

対象・期間

対象：医学科4年生

実習概要

昨年度までは、6年次の選択臨床実習期間に海外の医療機関での実習を希望する者を対象とした選択授業として行われていました。本年度からは、卒前医学教育の国際化促進を目的とし、4年次の「臨床推論」の1コンテンツとして全ての学生が履修するコースとなりました。英語による医療面接や身体診察をロールプレイを通じて学びます。

学習目標

英語話者との診療で求められる医療面接や身体診察を含む患者コミュニケーションに必要な英語表現を習得します。また、海外臨床実習希望者には、補講を開催し、実習先の指導医や医療者間の会話内容が理解できる英語力を目指します。

MEDC 担当教員

野村理 宮地由佳 早川佳穂 西城卓也

特色・報告

外部講師の招聘

日本での医療英語教育に精通している講師を招聘しています。

コンテンツ

英語での医療面接と部位別の身体診察を学生同士でのロールプレイを通じながら習得します。海外臨床実習を希望する学生には、模擬患者役を演じてもらい、実践的な英語での会話の機会を多く設けるようにしました。

海外臨床実習

25-26年度は、アメリカ、イギリス、オーストラリア、カナダ、タイなどへ20名が計28施設で実習参加しました。

英語試験の変更習

海外臨床実習を行う学生が充実した臨床経験ができる英語力を担保することを目的に従来のTOEFL ITPからOET Medicineに変更することが教務厚生委員会で決定されました。また、OET Medicine受験のための自己学習を促進する目的での英語教材の紹介などを行っています。

今後の課題と抱負

海外臨床実習を行った学生と、今後希望する学生との交流会などを運営し、学生が自主的に海外臨床実習への情報を収集できる環境を構築していきます。

英語OSCE

English OSCE

コンピテンシー

英語コミュニケーション、異文化対応能力

対象・期間

対象：医学科5年生

期間：課外実習（6月28日）

実習概要

海外臨床実習の希望者対象の準備教育の総括として、英語OSCEを実施しています。試験は3ステーションで構成され、症例シナリオが提示されたあとに、医療面接や症例報告に関する実技試験を行います。

学習目標

海外臨床実習で求められる医療面接や身体診察において必要なコミュニケーションや英語表現や態度、非言語コミュニケーション能力等を総合的かつ形成的に評価し、今後の学習につなげることも目的としています。

MEDC 担当教員

野村理 早川佳穂 宮地由佳

特色・報告

オンラインOSCEの実施

今年度は本学のチュートリアル室において、岐阜大学の学生26名を対象に実施しました。岐阜大学教員4名、非常勤講師2名の計6名を評価者とし、MEDC教員とMEDC事務職員それぞれ1名および学務職員1名の運営管理のもと、英語話者の模擬患者3名に協力いただき実施しました。

運営の工夫

昨年よりも受験者が1.5倍に増えたことから、試験列を3列としました。その結果、評価者や模擬患者のリクルートを比較的時間をかけて慎重に実施することで、運営が可能となりました。

今後の課題と抱負

教職員の十分な準備に運営している英語OSCEではありますが、学生の英語力のばらつき、シナリオの難易度設定、十分な信頼性を保持するステーション数の確保な困難なことが課題でありました。これらの問題を解決しつつ、学生が十分な英語コミュニケーション及び臨床能力を持ち有意義な海外臨床実習で行える方策について、MEDC教員での議論及び教務厚生委員会で審議の結果、今年度で英語OSCEを終了し、次年度からは海外臨床実習の要件にOET Medicine試験を課すこととなりました。

里親(里子)支援

Student Support

コンピテンシー

心身の安定をはかる、学生相互交流をする

対象・期間

対象：医学科1～6年生

期間：通年

概要

MEDCに割り振られた学生（1学年3名～8名程度）と授業外でつながりを持ち、定期的に面談を行います。

学生の状況把握と、困りごとへの相談に対応します。

目標

学生が心身ともに健康な状態で学業に望むために、基盤を作ります。学内で、クラスやサークル以外でのネットワークを作ります。

MEDC 担当教員

西城卓也 野村理 川上ちひろ 宮地由佳

早川佳穂 木原美波 高橋美裕希

特色・報告

活動内容

教員とのつながりを持つため、定期的に面談を行なっています。そこでは学生相互の交流も行います。

また、定期的にイベントを計画し、学年を越えた交流も行っています。また卒業生ともつながりを持ちながら活動を行っています。

連絡方法

里子学生とは、Microsoft Teamsを通じて、連絡等を行なっています。

今後の課題と抱負

里親－里子関係は、主となる学生支援ではなく、緩いつながりです。学生によっては不要と感ずることもあるかもしれませんが、学生支援におけるセーフティネットの一つとして機能することを期待しています。

学内活動・学外活動

指導医講習会

CLINICAL TEACHER TRAINING@GIFU PREFECTURE

岐阜県医師育成・確保コンソーシアムでは、県内研修病院の指導医を対象とした講習会を年2回（各2日間）開催しております。MEDCは講習会責任の一端を担い、企画・運営を担当いたしました。令和7年度は初日をオンライン、2日目を対面とし、有機的に組み合わせて実施いたしました。臨床研修制度の動向に加え、コーチングや評価、R2C2モデルを取り入れ、理論と実践を往還する構成といたしました。さらに、研修医の働き方改革と日々の研修・研鑽の在り方を考えるセッションも設け、持続可能な学修環境について議論を深めました。教育を「研鑽」から「研修」として位置づけ直し、多様なキャリアや子育て世代の指導医のニーズにも応答しながら、今後も講習会の質向上に努めてまいります。

ユニットの会

UNIT ASSOCIATION

MEDCは、全国の医学部や大学病院にある医学教育に関連する部門が集う“ユニットの会”の事務局として、全国の幹事校の皆様とともに運営しています。活動のプラットフォームは主に2つです。1つはメーリングリストで、実情や改善のアイデアを共有するためのアンケートの実施や意見交換、各大学でのセミナーやワークショップなどの開催案内、カリキュラム開発や改訂に関する情報共有が活発に行われてきました。もう1つは対面/オンラインでのFDです。これまでは年に一度の日本医学教育学会大会で、顔合わせを兼ねて総会として実施されてきましたが、令和7年度は拠点活動の効果を全国にさらに波及するために、他大学ユニットとの間での互助・協働・共創の場の設定やネットワークの再編成を図るため、5月の東京でのセミナー&ワークショップ、7月の学術大会（秋田）でニーズを集約し、11月のセミナー&ワークショップ（鹿児島）では初の九州地区大会が行われました。令和8年度も引き続き、地域ごとの連携、地域を超えた連携の場として成長してまいります。

臨床スキル・シミュレーションラボ

SKILLS-LAB

臨床スキル・シミュレーションラボ（スキルスラボ）は、教育福利棟4階に設置されており、医療現場で必要となる基本的な手技をシミュレータ等を用いて演習できる施設です。2025年度（2025年4月～2026年3月）の年間利用者数は2,613名でした。利用者の多くは医学部医学科学生であり、その利用目的は主に臨床実習や選択臨床実習での臨床実習技能訓練で、小児科、総合内科、外科、泌尿器科、呼吸器内科がスキルスラボで学生教育を行っています。またOSCE前実習やOSCE試験にも活用されます。今年度もPre・Post CC-OSCEに対する自主練習においては、予約枠を設定することで、すべての希望者が十分練習できるようにしました。また、昨年度に引き続き、HoloLensを使用し、バーチャル患者を診察する教育（地域医療医学センター）を取り入れました。その他、3つのサークル「基本的臨床技能の会」、「Gifu Emergency Medical students」「GIFMSA（国際医学生連盟岐阜）」が定期的に活動を行っています。卒後教育では、研修医のオリエンテーション、看護部の新人研修、さらには特定行為看護師の研修でも利用いただいています。引き続き、学内外の皆様が積極的に利用できるような環境づくりを目指してまいります。

岐阜大学模擬患者の会

SIMULATED PATIENT ASSOCIATION

本会は、患者役として医療者教育にご協力いただく市民の会です。模擬患者（SP）の協力は医療者教育に欠かせないものとなっています。令和8年3月現在、30名（男性7名、女性23名）が活動しています。本年度は、4年生の「医師患者関係」実習および4年生・6年生のOSCEを中心に、多くの模擬患者の皆さまに患者役としてご協力いただきました。さらに、1年生のヘルスケアシステム演習におけるコミュニケーション実習で学生とのやりとりにご協力いただいたほか、4年生の「医師患者関係」では市民として学生のインタビューに応じていただくなど、幅広くご活躍いただいています。また、令和5年度から臨床実習前OSCEが公的化されたことに伴い、11名の「認定標準模擬患者」の皆さまにもご活躍いただきました。令和8年度も、より充実した活動につながるよう、継続的な支援を行ってまいります。

医学教育分野のIR実践

PRACTICE OF INSTITUTIONAL RESEARCH IN MEDICAL EDUCATION

岐阜大学医学部医学科では、2017年に「医学教育IR室」が正式発足し、学生及びカリキュラムを統括的に評価する役割を担っています。Institutional Research (IR) とは、学内のデータを収集・分析・報告することで大学の改善を促すことです。2022年度には、分野別国際認証での指南を反映させるべく、IR室の上位組織としてプログラム評価委員会が発足し、西城センター長が委員長となりました。2023年度からは東海国立大学の連携のもと名古屋大学との匿名化したうえでのアンケートの結果共有の連携が始まりました。2024年7月には野村併任講師が着任し、学習環境尺度の開発などソフトアウトカムに関連する調査も名古屋大学との連携のもと実施しています。

マギル大学臨床教育研修会

PRACTICUM PROGRAM ON TEACHING IN THE CLINICAL SETTING AT McGill UNIVERSITY

岐阜県医師育成・確保コンソーシアムが主催するカナダ・マギル大学における臨床指導医向け国際短期研修会において、MEDCからは西城センター長が日本側ディレクターを務め、運営に携わっております。これまで2014・2015・2017・2019・2023年に岐阜県内の指導医を引率してまいりましたが、令和7年度（2025）はカナダからの招聘は行わず、日本人参加者9名がマギル大学を訪問し研修を修了いたしました。講師の野村理も研修ファシリテーターとして参加し、地域共創型飛騨高山医療者教育学講座からは高橋美裕希準教授が総合内科医として参加いたしました。これにより、これまでの修了者は総計59名となりました。本事業は隔年で相互交流を行っており、2026年度は交流の順番によりカナダの指導医を岐阜に招聘する予定です。今後も国際的視野をもつ指導医育成を通じ、岐阜県全体の臨床指導力向上に貢献してまいります。

沿 革

西 暦	医学教育開発研究センター	医学教育と社会背景
1964		岐阜大学に医学部設置
1969		日本医学教育学会の創立 牛場大蔵会長
1973		WHO 主催 第 1 回 Teachers Training ワークショップ開催（豪州シドニー）日本から、牛場大蔵（慶應義塾大）・日野原重明（聖路加国際病院）・館正知（岐阜大医学部長）の 3 名が参加
1974		WHO 主催 第 2 回 Teachers Training ワークショップ開催（豪州シドニー）日本から尾島昭次（岐阜大医学部）ら5名が参加
1995		岐阜大学医学部に国立大学で初めてテュートリアル教育を導入
1997		日本医学教育学会が日本医学会に第 90 分科会として加盟
2000.3. 2000.9.15-17 2000.12.22	第 1 回医学教育セミナーとワークショップ 第 2 回医学教育セミナーとワークショップ 医学教育開発研究センター 設置認可	医学教育学会 尾島昭次会長 32 回医学教育学会（東北大） 東京大学医学教育国際協力研究センター開設
2001 2001.5.29 2001.8.27-30 2001.11.8-10	医学教育開発研究センター開設 客員教授 Chirasak Khamboonruang 先生招聘 記念式典・基調講演・祝賀会（岐阜ルネサンスホテル） 第 3 回医学教育セミナーとワークショップ 第 2 回国公立医学部・歯学部教務事務職員研修	33 回医学教育学会（東海大） 医学教育モデル・コア・カリキュラム策定 アメリカ同時多発テロ
2002 2002.5.24-26 2002.8.26-28 2002.11.12-14 2002.11.16-17	知的クラスター創成事業受託 客員教授 Gregg Colvin 先生招聘 スタッフ海外研修（メルボルン大学、シドニー病院視察） スタッフ海外研修（マーストリヒト大学視察） 第 4 回医学教育セミナーとワークショップ 第 5 回医学教育セミナーとワークショップ 第 3 回国公立医学部・歯学部教務事務職員研修 第 6 回医学教育セミナーとワークショップ	34 回医学教育学会（昭和大学） 東京医科歯科大学歯学部医学教育システム 研究センター開設 FIFA ワールドカップ 岐阜大学医学部が司町から柳戸キャンパスへ移転
2003 2003.1.25-26 2003.5.23-25 2003.7.31-8.2 2003.10.25-26 2003.11.12-14	特色ある大学教育支援プログラム（文科省）「能動・思考促進型を柱とする全人的医学教育」採択 客員教授 Jutty Ramesh 先生招聘 第 7 回医学教育セミナーとワークショップ（久留米大） 第 8 回医学教育セミナーとワークショップ 第 9 回医学教育セミナーとワークショップ 第 10 回医学教育セミナーとワークショップ（近畿大） 第 4 回国公立医学部・歯学部教務事務職員研修	医学教育学会 齋藤宣彦会長 35 回医学教育学会（佐賀医大） SARS

西 暦	医学教育開発研究センター	医学教育と社会背景
2004 2004.1.31 2004.5.22-23 2004.8.5-7 2004.10.23-24 2004.11.24-26	客員教授 Ratanavadee Nanagara 先生招聘 第 11 回医学教育セミナーとワークショップ 第 12 回医学教育セミナーとワークショップ (藤田医科大) 第 13 回医学教育セミナーとワークショップ 第 14 回医学教育セミナーとワークショップ 第 5 回国公立医学部・歯学部教務事務職員研修	36 回医学教育学会 (高知大) 新医師臨床研修制度施行 医療系大学間共用試験実施評価機構 岐阜大学医学部・附属病院移転 スマトラ島沖地震・大津波
2005 2005.1.29-30 2005.4.23-24 2005.8.26-28 2005.11.5-6 2005.11.28-30	スタッフ海外研修 (ハーバード大学) 第 15 回医学教育セミナーとワークショップ (慈恵医大) 第 16 回医学教育セミナーとワークショップ (金沢医大) 第 17 回医学教育セミナーとワークショップ 第 18 回医学教育セミナーとワークショップ (岩手医大) 第 6 回国公立医学部・歯学部教務事務職員研修	37 回医学教育学会 (東京大) 共用試験 CBT/OSCE 正式実施 中部国際空港 (セントレア) 開港 愛知万博
2006 2006.1.28-29 2006.4.22-23 2006.8.25-27 2006.10.28-29 2006.11.27-29	客員教授 Phillip Evans 先生招聘 スタッフ海外研修 (スコットランド) 第 19 回医学教育セミナーとワークショップ 第 20 回医学教育セミナーとワークショップ (筑波大) 第 21 回医学教育セミナーとワークショップ 第 22 回医学教育セミナーとワークショップ (横浜市大) 第 7 回国公立医学部・歯学部教務事務職員研修	38 回医学教育学会 (奈良医大) 人口減少社会に突入 医療崩壊問題
2008 2008.1.12-13 2008.5.10-11 2008.6.7 2008.8.4-6 2008.10.25-26 2008.12.3-5	医学教育学博士課程開講 客員教授 Jan-Joost Rethans 先生招聘 第 27 回医学教育セミナーとワークショップ (名城大) 第 28 回医学教育セミナーとワークショップ (大阪医大) 岐阜大学模擬患者の会 10 周年シンポジウム 第 29 回医学教育セミナーとワークショップ 第 30 回医学教育セミナーとワークショップ (日本医大) 第 9 回国公立医学部・歯学部教務事務職員研修	40 回医学教育学会 (東京医大) 医学部定員増・地域枠入試導入 リーマンショック 後期高齢者医療制度
2009 2009.1.24-25 2009.5.16-17 2009.8.7-9 2009.10.28-30 2009.11.14-15	現代的教育ニーズ取り組み支援プログラム (文科省)「臨床医学教育を強化向上させる ICT」採択 客員教授 Jennifer Cleland 先生招聘 スタッフ海外研修 (グラスゴー大学 OSCE 視察) 第 31 回医学教育セミナーとワークショップ 第 32 回医学教育セミナーとワークショップ (慶應義塾大) 第 33 回医学教育セミナーとワークショップ 第 10 回国公立医学部・歯学部教務事務職員研修 第 34 回医学教育セミナーとワークショップ (札幌医大)	医学教育学会 伴信太郎会長 41 回医学教育学会 (近畿大) 新型インフルエンザパンデミック
2010 2010.1.23-24 2010.5.22-23 2010.8.27-29 2010.10.27-29 2010.11.6-7 2010.12.21	教育関係共同利用拠点認定 (第 1 期) 客員教授 Peter Baton 先生招聘 客員教授 Phillip Evans 先生招聘 アフガニスタン医学教育研修受入 スタッフ研修 (スコットランド医学教育視察) 第 35 回医学教育セミナーとワークショップ 第 36 回医学教育セミナーとワークショップ (東邦大) 第 37 回医学教育セミナーとワークショップ 第 11 回国公立医学部・歯学部教務事務職員研修 第 38 回医学教育セミナーとワークショップ (名古屋大) 10 周年外部評価	42 回医学教育学会 (日本医大) 日本医学教育学会が一般社団法人となる ECFMG 通告 (2023 年問題) 小惑星探査機はやぶさ帰還

西 暦	医学教育開発研究センター	医学教育と社会背景
2011 2011.1.22-23 2011.5.14-15 2011.6.1-3 2011.8.5-7 2011.11.19-20	医学教育開発研究センター開設 10 周年 客員教授 劉 克明先生招聘 外部評価 第 39 回医学教育セミナーとワークショップ（広島大） 第 40 回記念医学教育セミナーとワークショップ・10 周年記念式典 第 12 回国公立医学部・歯学部教務事務職員研修 第 41 回医学教育セミナーとワークショップ 第 42 回医学教育セミナーとワークショップ（千葉大）	43 回医学教育学会（広島大） 医学教育モデル・コア・カリキュラム改定 東日本大震災・福島第一原発事故 FIFA 女子ワールドカップ
2012 2012.1.28-29 2012.5.26-27 2012.6.6-8 2012.8.17-19 2012.10.26-28	客員教授 Farhan Bhanji 先生招聘 スタッフ研修（マギル大学医学教育視察） 医学教育賞懸田賞（西城卓也） 第 43 回医学教育セミナーとワークショップ 第 44 回医学教育セミナーとワークショップ（福島医大） 第 13 回国公立医学部・歯学部教務事務職員研修 第 45 回医学教育セミナーとワークショップ 第 46 回医学教育セミナーとワークショップ	医学教育学会 伴信太郎理事長 44 回医学教育学会（慶應義塾大） MERS 山中伸弥 ノーベル賞
2013 2013.1.25 2013.1.26-27 2013.5.8-10 2013.6.8-9 2013.8.9-10 2013.11.1-3	スタッフ研修（グラスゴー大学、エジンバラ大学） 第 47 回プレカンファレンス（WFME スタンダード） 第 47 回医学教育セミナーとワークショップ（琉球大） 第 14 回国公立医学部・歯学部教務事務職員研修 第 48 回医学教育セミナーとワークショップ（京都大） 第 49 回医学教育セミナーとワークショップ 第 50 回記念医学教育セミナーとワークショップ	45 回医学教育学会（千葉大） 医学教育分野別評価トライアル開始
2014 2014.1.27-28 2014.5.13-15 2014.5.24-25 2014.8.8-10 2014.8.27-30 2014.10.18-19 2014.10.27-31 2014.12.5	客員教授 Susan Bridges 先生招聘 特任教授 Phillip Evans 先生招聘 Trevor Gibbs 先生招聘 第 51 回医学教育セミナーとワークショップ（東京医科歯科大） 第 15 回国公立医学部・歯学部教務事務職員研修 第 52 回医学教育セミナーとワークショップ（秋田大） 第 53 回医学教育セミナーとワークショップ スタッフ研修（ヘルシンキ大学） 第 54 回医学教育セミナーとワークショップ（九州大） 第 1 回岐阜県内臨床研修病院指導医のための実践的研修 “Teaching in the Clinical Setting”（マギル大） 大学改革シンポジウム「地域・市民とともに育てる医療人」	医学教育学会 伴信太郎理事長 46 回医学教育学会（和歌山医大） 日本専門医機構設立 医学教育専門家制度発足 デング熱 御嶽山噴火
2015 2015.1.31-2.1 2015.5.13-15 2015.6.6-7 2015.8.7-9 2015.10.17-18 2015.11.2-6	教育関係共同利用拠点認定（第 2 期） フェローシップ・アソシエイト制度開始 客員教授 Daisy Rotzoll 先生招聘 医学教育賞牛場賞（高橋優三） 医学教育賞日野原賞（鈴木康之） 第 55 回医学教育セミナーとワークショップ 第 16 回国公立医学部・歯学部教務事務職員研修 第 56 回医学教育セミナーとワークショップ（埼玉医大） フェローシッププログラム：メドギフト 2015 開催 第 57 回医学教育セミナーとワークショップ 第 58 回医学教育セミナーとワークショップ（香川大） 第 2 回岐阜県内臨床研修病院指導医のための実践的研修 “Teaching in the Clinical Setting”（マギル大）	47 回医学教育学会（新潟大） 岐阜大学医学教育分野別評価トライアル受審 大村智、梶田隆章 ノーベル賞

西 暦	医学教育開発研究センター	医学教育と社会背景
2016 2016.1.23-24 2016.5.11-13 2016.5.21-22 2016.8.19-21 2016.10.22-23	客員教授 Yvonne Steinert 先生招聘 第 59 回医学教育セミナーとワークショップ 第 17 回国公立医学部・歯学部教務事務職員研修 第 60 回医学教育セミナーとワークショップ（東京医大） フェローシッププログラム：メドギフト 2016 開催 第 61 回医学教育セミナーとワークショップ 第 62 回医学教育セミナーとワークショップ（兵庫医大）	医学教育学会 鈴木康之理事長 48 回医学教育学会（大阪医大） 東北医科薬科大学医学部新設 熊本地震
2017 2017.1.27-29 2017.5.10-12 2017.4.22-23 2017.7.21-23 2017.10.14-15 2017.10.23-27	客員教授 Linda Snell 先生招聘 第 63 回医学教育セミナーとワークショップ 第 18 回国公立医学部・歯学部教務事務職員研修 第 64 回医学教育セミナーとワークショップ（昭和医大） 第 65 回医学教育セミナーとワークショップ フェローシッププログラム：メドギフト 2017 開催 第 66 回医学教育セミナーとワークショップ（岡山大） 第 3 回岐阜県内臨床研修病院指導医のための実践的研修 “Teaching in the Clinical Setting”（マギル大）	49 回医学教育学会（札幌医大） 日本医学教育評価機構設立 岐阜大学医学教育分野別評価認定 医学教育モデル・コア・カリキュラム改定 Post-CC OSCE トライアル開始 国際医療福祉大学医学部新設
2018 2018.1.27-28 2018.6.1-3 2018.6.2-3 2018.8.18-19 2018.11.3-4	客員教授 Joyce Pickering 先生招聘 第 67 回医学教育セミナーとワークショップ（早稲田大） 第 19 回国公立医学部・歯学部教務事務職員研修 第 68 回医学教育セミナーとワークショップ（第 6 回日本シミュレーション医療教育学会併催） フェローシッププログラム：メドギフト 2017 開催 第 69 回医学教育セミナーとワークショップ（信州大） 第 70 回医学教育セミナーとワークショップ（自治医科大）	医学教育学会 鈴木康之理事長 50 回医学教育学会（東京医科歯科大） 医師国家試験問題 400 問へ 医行為に関する研究班（門田班） 本庶佑 ノーベル賞 新専門医制度施行 医学部不適切入試問題
2019 2019.1.25-27 2019.5.24-26 2019.5.25-26 2019.7.28 2019.8.9-10 2019.8.29-31 2019.10.12-13 2019.10.28-11.1	医療者教育学専攻修士課程認可（文科省設置審） Jennifer Cleland 先生招聘 第 71 回医学教育セミナーとワークショップ 第 20 回国公立医学部・歯学部教務事務職員研修 第 72 回医学教育セミナーとワークショップ フェローシッププログラム：メドギフト 2019 開催 セミナー「格差時代の医学部入学を考える」 第 73 回医学教育セミナーとワークショップ（愛知学院大） スタッフ研修（ライブツィヒ大学） 第 74 回医学教育セミナーとワークショップ（国際医療福祉大） （台風により中止） 第 4 回岐阜県内臨床研修病院指導医のための実践的研修 Teaching in the Clinical Setting（マギル大）	51 回医学教育学会（京都府立医大） 平成から令和へ 働き方改革 ラグビー-W 杯 吉野彰 ノーベル賞
2020 2020.1.25-26 2020.5.22-24 2020.5.23-24 2020.10.2-4	医療者教育学専攻修士課程開講 教育関係共同利用拠点認定（第 3 期） フェローシッププログラム：メドギフト 2020 開催 第 75 回医学教育セミナーとワークショップ 第 21 回国公立医学部・歯学部教務事務職員研修（COVID-19 パンデミックにより中止） 第 76 回医学教育セミナーとワークショップ（ウエブ） 第 77 回医学教育セミナーとワークショップ（ウエブ）	医学教育学会 小西靖彦理事長 52 回医学教育学会（鹿児島大） COVID-19 パンデミック 東海国立大学機構設立 はやぶさ 2 帰還 東京オリンピック延期

西 暦	医学教育開発研究センター	医学教育と社会背景
2021 2021.1.22-23 2021.5.21-23 2021.11.13-14	医学教育開発研究センター20周年 フェローシッププログラム：メドギフト 2021 開催 第 78 回医学教育セミナーとワークショップ（ウェブ） 第 79 回医学教育セミナーとワークショップ（ウェブ） 第 22 回国公立医学部・歯学部教務事務職員研修（ウェブ） 第 3 期拠点事業教職協働スターターキット開講 第 80 回医学教育セミナーとワークショップ（with 聖隷浜松病院）	53 回医学教育学会（自治医大） COVID-19 パンデミック 新型コロナウイルス ワクチン接種開始 東京オリンピック開催 真鍋叔郎 ノーベル賞 医学教育分野別評価 2 巡目受審
2022 2022.1.22-23 2022.3.18 2022.3.25 2022.5.19-21 2022.10.28-29	フェローシッププログラム：メドギフト 2022 開催 医学教育賞日野原賞（西城卓也） 医学教育賞懸田賞（今福輪太郎） 第 81 回医学教育セミナーとワークショップ（ウェブ） MEDTaalk プラス：『さまざまな「学習・学修できない」と、その支援』 医療者教育学専攻修士課程 一期生修了 第 82 回医学教育セミナーとワークショップ（ウェブ） 第 23 回国公立医学部・歯学部教務事務職員研修（ウェブ） 第 83 回医学教育セミナーとワークショップ（関西医科大）	医学教育学会 小西靖彦理事長 54 回医学教育学会（群馬大） 北京オリンピック開催 ロシア ウクライナ侵攻 円急落 サッカー-W 杯
2023 2023.1.26-28 2023.3.25 2023.5.24-26 2023.5.24-25 2023.6.1 2023.10.6-7	フェローシッププログラム：メドギフト 2023 開催 第 84 回医学教育セミナーとワークショップ（ウェブ） 医療者教育学専攻修士課程 二期生修了 第 85 回医学教育セミナーとワークショップ（ウェブ） 第 24 回国公立医学部・歯学部教務事務職員研修（ウェブ） 5G を活用した遠隔授業の実験が電波利用を通じた医療分野の発展に貢献したとして、東海情報通信懇談会において「東海情報懇談会 会長賞」を受賞 第 86 回医学教育セミナーとワークショップ（富山大）	55 回医学教育学会（長崎） 侍ジャパン、WBC で世界一に こども家庭庁・こども基本法新設 世界の総人口が 80 億人を超える COVID-19 「5 類」へ移行 生成 AI の高度化と普及が急速に進む 英国チャールズ国王戴冠式 将棋 藤井聡太 史上初八冠に
2024 2024.1.18-20 2024.3.25 2024.4.1 2024.5.22-24 2024.5.22-24 2024.10.26	医学教育賞懸田賞（川上ちひろ・野村理） 高度医療人材養成拠点形成事業（高度な臨床・研究能力を有する医師養成）小児希少難病に関する研究力向上に向けた医療者サポート事業 が採択される フェローシッププログラム：メドギフト 2024 開催 第 87 回医学教育セミナーとワークショップ（ウェブ） 医療者教育学専攻修士課程 三期生修了 岐阜大学大学院医学系研究科寄附講座 地域共創飛騨高山医療者教育学講座 開設 第 88 回医学教育セミナーとワークショップ（ウェブ） 第 25 回国公立医学部・歯学部教務事務職員研修（ウェブ） 第 89 回医学教育セミナーとワークショップ（愛知医科大）	医学教育学会 錦織宏理事長 能登半島地震 最大震度 7 JAXA 探査機 月面着陸に成功 H3 ロケット、初めて打ち上げ成功 北陸新幹線 金沢―敦賀間が延伸開業 円安・ドル高が一層進む 56 回医学教育学会（帝京大） 新紙幣発行 第 33 回夏季バリオ五輪開催 ノーベル平和賞に被団協
2025 2025.1.23-24 2025.3.25 2025.4.1 2025.5.29-30 2025.5.29-30 2025.11.27-28	教育関係共同利用拠点認定（第 4 期） フェローシッププログラム：メドギフト 2025 開講 第 90 回医学教育セミナーとワークショップ（ウェブ） 医療者教育学専攻修士課程 四期生修了 岐阜大学大学院医学系研究科希少難病研究室 開設 医療者教育デザイナー養成講座「らいちょう」開講 第 91 回医学教育セミナーとワークショップ（東京） 第 26 回国公立医学部・歯学部教務事務職員研修（東京） 第 92 回医学教育セミナーとワークショップ（鹿児島）	第 47 代米国大統領にドナルド・トランプ氏就任 ソフトバンクと OpenAI 社が日本で合併会社設立 日本の出生数が過去最少を更新 Microsoft 社「Skype」を終了 大阪・関西万博開催 57 回医学教育学会（秋田大） 第 104 代首相に高市早苗就任。憲政史上初の女性首相 ノーベル生理学・物理学賞に坂口志文 ノーベル化学賞に北川進

2026 2026.3.25	フェロースhipプログラム：メドギフト 2026 開講 医療者教育学専攻修士課程 五期生修了	第 25 回冬季ミラノ・コルティナ五輪開催 米・イスラエルがイランへ軍事攻撃
--------------------------	---	---



MEDICAL EDUCATION DEVELOPMENT CENTER, GIFU UNIVERSITY